

京都府埋蔵文化財情報

第84号

重要文化財に指定される金箔瓦 -----	森島 康雄 --	1
平成13年度京都府埋蔵文化財の調査 -----	伊野 近富 --	5
陝西省・河南省の遺跡を訪ねて		
—平成13年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会中国研修報告— -----	高野 陽子 --	13
平成13年度発掘調査略報 -----		21
20. 新堂池古墳群		
21. 池上遺跡第12次		
22. 案察使遺跡第4次		
23. 太田遺跡第14次		
24. 芝山遺跡		
25. 薪遺跡		
26. 赤ヶ平遺跡第2次		
長岡京跡調査だより・81 -----		35
財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧 -----		37
センターの動向 -----		38
受贈図書一覧 -----		40

2002年6月

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

巻頭図版



(1) 和水町出土の金箔瓦



(2) 両御霊町出土の金箔瓦

重要文化財に指定される金箔瓦

森島 康雄

はじめに 3月22日、国の文化財審議会の答申で、当調査研究センターが保管している聚楽第跡出土の瓦が重要文化財に指定されることになった。

聚楽第は、天正14(1586)年に豊臣秀吉が平安宮大内裏の故地、内野に築いた城郭である。天正16年4月には後陽成天皇の行幸を迎えて、諸大名に関白秀吉への忠誠を誓わせるという、秀吉政権にとって極めて重要な儀式の舞台となった。

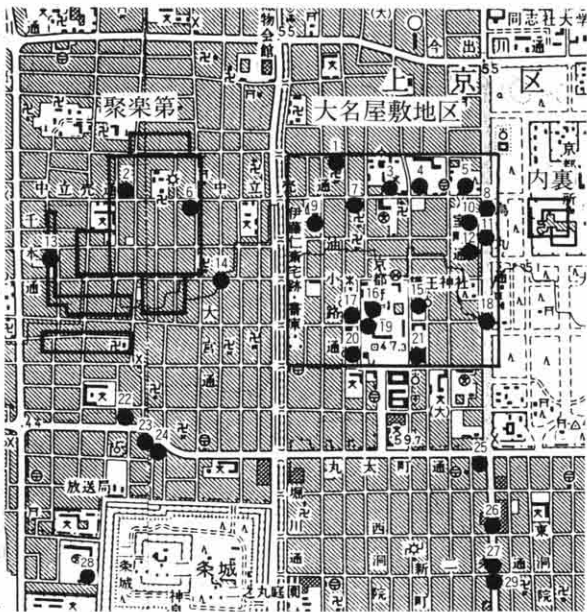
今回指定されることになったのは、平成3年度に京都市上京区和水町に所在する京都西陣公共職業安定所の庁舎改築に伴う発掘調査で聚楽第跡東堀から出土した資料と、平成4・5年度に京都市上京区両御霊町における京都府警察本部110番指令センター新築工事に伴う発掘調査で出土した資料であり、ともに、織豊期の瓦が一括して指定される。

和水町出土資料 聚楽第跡東堀を本丸側から埋め戻した土の中から出土したもので、聚楽第本丸内の建物に使用されていたことが確実な瓦である。廃棄年代は、豊臣秀次失脚の後、聚楽第が破却された文禄4(1595)年と考えられ、瓦の使用年代、廃棄年代が特定できる基準資料である。

出土した瓦のうち、軒丸瓦、軒平瓦、鬨斗瓦、棟込め瓦、鬼板瓦、獅子口瓦など、軒先と棟を飾る瓦には金箔が貼られている。ただし、本丸の盛土とともに堀に埋め戻された状態で出土したために、金箔の遺存状態はあまり良くないものが多い。

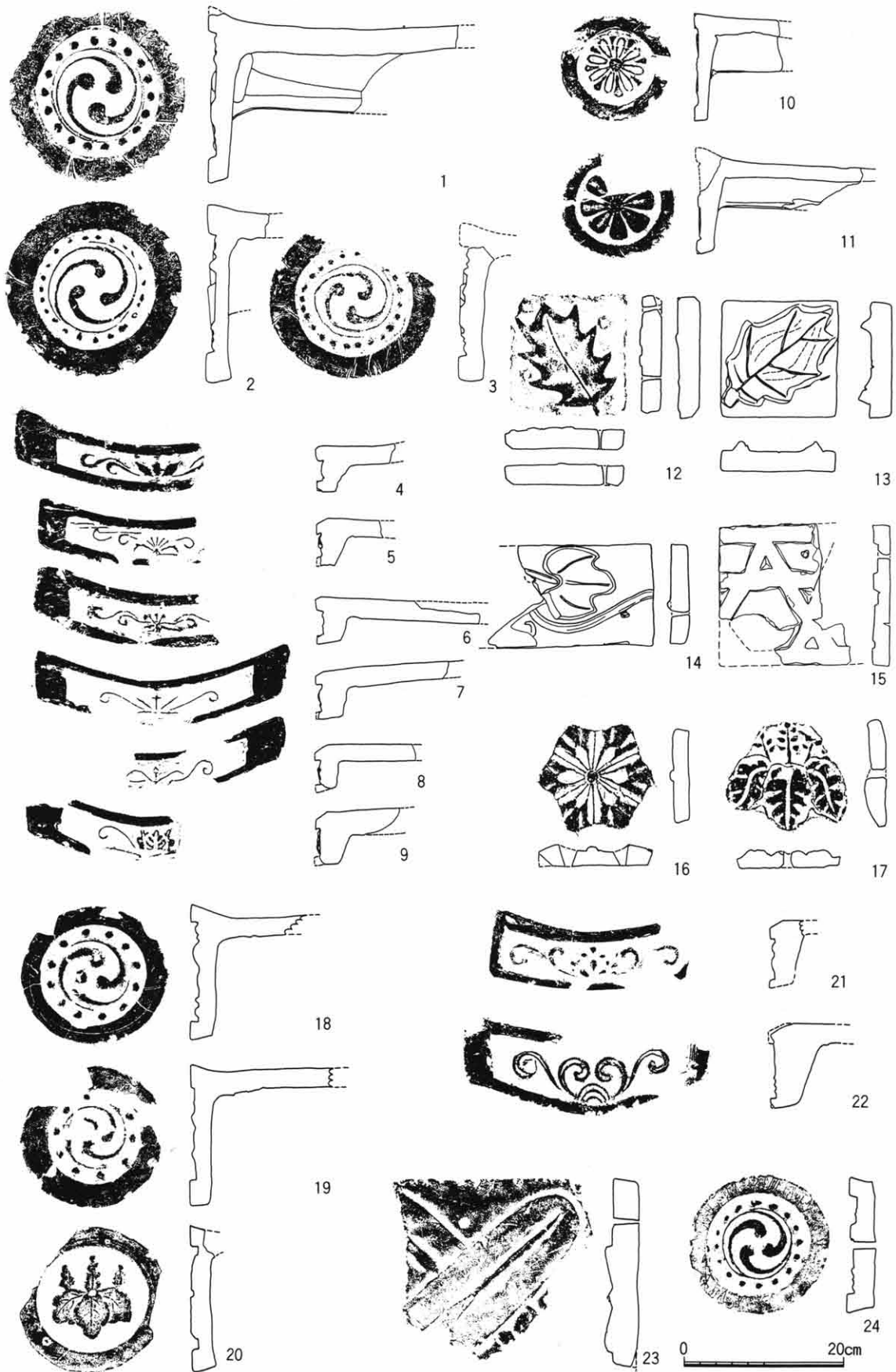
遺物整理箱約350箱におよぶ大量の瓦を分類することによって、聚楽第築城時における京都の瓦の様相が明らかとなり、織豊期の瓦の研究における定点が定まった。

軒平瓦の文様は43型式を抽出することができる。このうち、1型式あたりの出土個体数が多い8型式で全個体数の約半数を占めていることから、これらは、聚楽第築城にあたって新調された瓦と見ることができる。逆に、1型式あたりの出土個体数が少ないものには、聚楽第以前の城郭と同文のものが見られることから、これらの城郭の瓦が再利用されたものと考えられる。これら、再利用されたと考えられる瓦の中には、瓦当面の破損した部分にも金箔が施され



第1図 金箔瓦出土地点分布図(1/25,000)

- 6：和水町地点 21：両御霊町地点
3：浅野邸 5：佐竹邸 7：前田邸 10：織田邸



第2図 聚楽第と城下町の瓦 1~17：和永町地点(東堀) 18~24：両御霊町地点(大名屋敷)

たものや、表面が著しく磨滅しているにもかかわらず金箔の遺存しているものがある。このことは、各地から集められたさまざまな文様を持つ瓦を、金箔を貼ることによって聚楽第所用瓦として再利用したことを物語っている。

軒丸瓦の瓦当文様は、数点を除いて巴文+珠文である。巴の方向は、すべて反時計回りに尾が伸びるもので、逆方向のものは1点も見られない。巴文軒丸瓦の同範の認定は極めて困難であり、3種各2点の同伴を確認できたにとどまる。特徴としては、珠文や巴文の割り付けが整然と行われず、珠文の間隔や巴文の尾の長さが不均等な個体が目立つことが挙げられる。また、瓦当面の直径が16cm以上のものが多い。

飾り瓦類は文様・形態ともに多様で、8弁・16弁菊花文の菊丸瓦のほか、柗文・蔓草文・斜格子文の方形飾り瓦、唐花文・桐文の飾り瓦などがある。いずれも、文様の突出部分にのみ金箔が貼られている。棟端を飾る瓦には、草文・巴文の鬼板瓦と獅子口瓦のほか、すべての面に金箔の貼られた鯨瓦の可能性のある破片も見られる。

瓦製作時の粘土の切離し手法を観察すると、瓦の98.5%以上がコビキAと言われる撚り紐による切離し痕跡を持つものであった。出土した瓦には若干の補修瓦が含まれていることから、聚楽第築城時の京都には、コビキBと言われる鉄線による切離し手法は、存在しなかったと見ることができる。

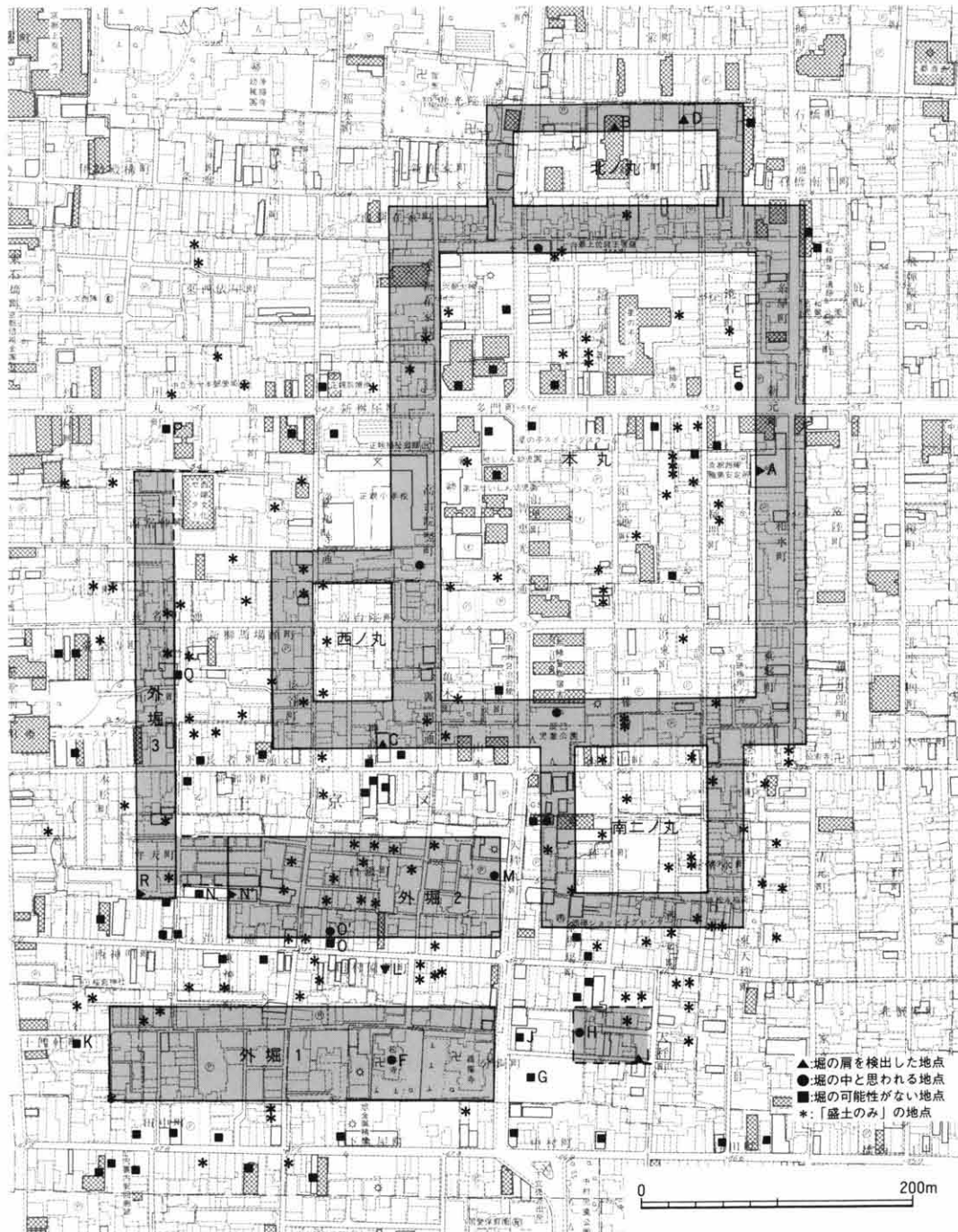
両御霊町出土資料 江戸時代初期の町境溝の護岸施設に転用されていたものなどで、瓦の文様構成にまとまりが見られることから、付近に存在した大名屋敷に使用されていた瓦と推定される。屋敷の主は、方形飾り瓦に「違い鷹羽文」が見られることから、浅野氏の可能性も考えられる。和水町出土資料と同様に、軒瓦などは、ほとんどすべて金箔瓦である。粘土層の中に密閉された状態で埋もれていたために、金箔が非常に良好に遺存しているものが多い。

軒平瓦は、桐花状の中心飾りに2反転の唐草の脇飾りを持つものがまとまって出土している。このほか、3重の半円形の中心飾りに2反転する唐草の脇飾りを配するものもみられる。これは、伏見城・大坂城に同文の例があるもので、唐草は複線でレリーフ状に表現されている。これらの瓦は、瓦当面の高さが6cmを超える。瓦当面を大きくしたり、文様をレリーフ状に表現したりすることは、金箔を貼る面積を大きくすることを意図したものであり、これらの瓦は範を作る段階から金箔瓦になることが予定されていた瓦といえることができる。

軒丸瓦の文様は、数点の桐文と木瓜文を除いて巴文である。巴文軒丸瓦は、巴頂部が扁平で、珠文の金箔が省略されているものが多い。瓦当面の直径は14cm程度で、東堀出土のものに比べて小さい。

飾り瓦類では、同型の巴文の方形飾り瓦がまとまって出土している。鬼板瓦類の可能性のある破片は1点のみである。

瓦に残された粘土の切離し痕跡には、コビキAとコビキBが混在している。中でも、軒平瓦と軒丸瓦の組み合わせが想定できるものは、すべてコビキBであり、これらの瓦は天正19(1591)年の「京中屋敷替え」に際して再編成された大名屋敷用に新たに作られた瓦と見ることができる。



第3図 聚楽第堀跡推定図

まとめ 和水町出土資料は織豊期の瓦の基準資料として極めて重要であり、これと両御霊町出土資料との比較によって、コビキBの出現、軒平瓦瓦当面の大型化などの変化が天正末年に生じたことが理解できる。また、聚楽第城下町の大名屋敷の配置(第1図)、聚楽第堀跡の位置の推定(第3図)など、両地点の調査成果をもとにして、豊臣期の京都の実態が明らかになってきている。

今回、重要文化財に指定されることになった瓦は、美術工芸的に見れば、決して優品とは言えないものである。むしろ、ここで述べたような歴史資料としての重要性が評価されたものであり、出土資料から歴史を叙述するという考古学の作業の重要性を改めて認識させられる重要文化財指定であると言えるだろう。(もりしま・やすお=調査第2課調査第2係主任調査員)

平成13年度京都府埋蔵文化財の調査

伊野 近富

平成13年度内に京都府管内で届け出・通知がなされた発掘調査は261件を数え、前年度に比べると21件の減になっている。このうち、当調査研究センターが実施した調査は別表のとおりである。以下、平成13年度に京都府内で行われた発掘調査成果について略述してみよう。

1. 旧石器・縄文時代

旧石器に関する資料は相変わらず少ない。散発的に採集されているのみで、長岡京右京726・727次調査(京都市西京区大原野石見)で採集されている。

縄文時代草創期のサヌカイト製の舌尖頭器が舞鶴市女布遺跡で採集された。向日市中野遺跡(長岡宮跡第407次)では黒色磨研浅鉢土器、向日市野田遺跡(長岡京跡左京第463次調査)では、晩期の流路が確認された。遺物は土器の他、石鏃、凹み石などがある。長岡京市神足の右京第706次調査では石鏃などが出土した。京田辺市三山木遺跡では晩期の土器片や石器が出土した。精華町椋ノ木遺跡では中期から晩期の土器の他、以前の調査では近畿では珍しいヒスイ製の玉珠や流紋岩製石庖丁なども出土した。遺構にはピットや炉跡などがある。遺跡は木津川西側の自然堤防上に立地していると考えられ、低地の縄文遺跡の例となった。

2. 弥生時代

峰山町赤坂今井墳丘墓で出土した管玉を分析した結果、古代中国で使われた人工顔料「漢青」が検出された。これは「ケイ酸銅バリウム」で、国内では2例目の発見となるという。また、ガラスに含まれる鉛の分析からガラス自体も中国産であることが確認された。

加悦町日吉ヶ丘遺跡では、中期の方形貼石墓が確認された。規模は南北約33m、東西17~22mの長方形で、周囲に幅5.5m前後の溝がある。管玉は約430個出土。棺内に大量の朱があった。また、この東側にある環濠集落から、生活道具や装飾品を生産していた工房跡と多量の鉄が確認された。

宮津市桑原口遺跡は後期を中心とする遺跡である。ここでは銅製の鏃1点が出土した。また、竪穴式住居跡1基が確認され、集落域が西方に広がっていたことが判明した。

八木町池上遺跡第11次調査では、中期の円形竪穴式住居跡と方形周溝墓が検出された。第12次調査では中期の方形周溝墓10基以上、主体部は50基以上が確認された。これまでの調査成果を含めると方形周溝墓は30基弱となり、京都府内でも屈指の遺跡となった。

平成13年度発掘調査一覧(当センター調査分のみ)

番号	遺跡名	種別	所在地	担当者	調査期間	概要
1	くわはらぐち 桑原口遺跡第6次	集落跡	宮津市	戸原和人 田代 弘 福島孝行	6～11月	弥生～古墳時代の溝、柱穴。
2	とうぜんじ 東禅寺古墳群	古墳	宮津市	田代 弘	5～8月	前・後期古墳3基。櫛歯文鏡。
3	いけがみ 池上遺跡第11次	集落跡	八木町	田代 弘	10～2月	古墳時代～中世の集落跡。
4	さと 里遺跡第2次	集落跡	亀岡市	戸原和人 松尾史子 小池 寛	8～12月	弥生時代竪穴式住居跡。奈良時代掘立柱建物跡。
5	すぎきた 杉北遺跡第7次	集落跡	亀岡市	戸原和人	7～8月	古墳時代竪穴式住居跡。中世ピット群。
6	ほづくるまづか 保津車塚古墳第2次	古墳	亀岡市	戸原和人 石尾政信	9～12月	古墳時代中期前方後円墳。二重周濠。盾形木製品。
7	あぜち 案察使遺跡第4次	集落跡	亀岡市	戸原和人 石尾政信 福島孝行 松尾史子 村田和弘	11～3月	弥生時代後期の土坑群。
8	きづがわかしょう 木津川河床遺跡	集落跡	八幡市	松尾史子	6～10月	中世素掘り溝。
9	うちさとのはちょう 内里八丁遺跡第17次	集落跡	八幡市	戸原和人 石尾政信 石崎善久 松尾史子	4～9月	平安時代～中世の鳥島、柱穴、溝、土坑。奈良時代～平安時代溝。
10	しんどういけ 新堂池古墳群	古墳	園部町	引原茂治	12～2月	墳丘墓1、古墳3基。1基は横穴式石室。
11	いけがみ 池上遺跡第12次	集落跡	八木町	岡崎研一 中川和哉	10～2月	弥生時代～中世集落後。方形周溝墓8基以上、溝、竪穴式住居跡20基以上、掘立柱建物跡。
12	おおた 太田遺跡第14次	集落跡	亀岡市	小池 寛 黒坪一樹	11～2月	弥生時代～中世集落跡。弥生時代の池状遺構、溝。中世の井戸3基。
13	ときわなかのちょう 常盤仲之町遺跡	集落跡	京都市	小池 寛	5～6月	中世～近世初頭集落跡。
14	みやまぎ 三山木遺跡第4次	集落跡	京田辺市	引原茂治	5～10月	縄文時代～近世。溝・井戸。
15	いなば 稲葉遺跡第7次	集落跡	京田辺市	中川和哉 小池 寛	5～8月	弥生時代土坑。古墳時代柱穴、溝。
16	きづしろやま 木津城山遺跡第5次	集落跡	木津町	筒井崇史	6～9月	弥生時代後期高地性集落跡。
17	あかがひら 赤ヶ平遺跡第2次	集落跡	木津町	筒井崇史	10～2月	弥生時代前期竪穴式住居跡。石器剥片多数。和鏡。
18	ふるやしき 古屋敷遺跡	集落跡	京田辺市	黒坪一樹	9～12月	中世溝・井戸。
19	さやま 佐山遺跡第3次	集落跡	久御山町	竹原一彦 伊賀高広 高野陽子 岡崎研一	4～8月	弥生～古墳時代集落跡。竪穴式住居跡40基、竪穴式住居跡30基、溝。奈良時代土坑、掘立柱建物跡。中世の環濠、護岸施設。
20	いちださいとうぼう 市田齊当坊遺跡第4次	集落跡	久御山町	野島 永 高野陽子	4～6月	弥生時代中期の竪穴式住居跡、方形周溝墓。

21	おんなだに あらさか 女谷・荒坂横穴群第 2次	横穴	八幡市	岩松 保 伊賀高弘 村田和弘 黒坪一樹	4～11月	横穴30基。須恵器・土師器・鉄器・ 馬具・耳環・埴輪・人骨等出土。
22	あらさか 荒坂遺跡	集落跡	八幡市	岩松 保 村田和弘	11月	顕著な遺構・遺物なし。
23	たきぎ 新遺跡	集落跡	京田辺市	竹原一彦	1～2月	縄文時代後期の土坑。古墳周濠。
24	いででら かやのき 井手寺跡・栢ノ木遺 跡	寺院跡	井手町	野島 永	7～8月	奈良～平安時代の掘立柱建物跡。
25	ながおかきょう ひがしだい 長岡京跡・東代遺跡	集落跡	長岡京市	柴 暁彦	4～6月	奈良～平安時代の掘立柱建物跡、井 戸跡。近世～近代の耕作溝。
26	しもうえのみなみ 下植野南遺跡	集落跡	大山崎町	石井清司 増田孝彦 中村周平 引原茂治	4～12月	弥生時代中期方形周溝墓。古墳2 基。古墳時代前期の竪穴式住居跡、 溝、土坑、井戸。古墳時代後期の竪 穴式住居跡、掘立柱建物跡、溝。中 世～近世の道路遺構(久我駿)。
27	しばやま 芝山遺跡	集落跡	城陽市	柴 暁彦 伊賀高弘	12～2月	古墳～奈良時代の集落跡。
28	むくのき 棕ノ木遺跡第5次	集落跡	精華町	河野一隆 柴 暁彦 藤井 整	6～2月	縄文土器。古墳時代前期の竪穴式住 居跡、掘立柱建物跡。中世の集落 跡・条里遺構。
29	ながおかきょう いのうち 長岡京跡・井ノ内遺 跡	集落跡	長岡京市	柴 暁彦	7～9月	中世の溝状遺構・土坑。
30	あたごじんじゃ 愛宕神社古墳	古墳	丹後町	石崎善久 福島孝行	10～2月	横穴式石室墳1基。中世墓。
31	りょうあんじ 名勝龍安寺庭園	寺院跡	京都市	増田孝彦	2月	布目瓦、陶磁器、土師器皿、焼塩壺

亀岡市里遺跡では、直径7mの円形の竪穴式住居跡1基が確認された。同市太田遺跡では、弥生時代終末期の池沼や溝が確認された。同市案察使遺跡では、800基以上の土坑があり、そのいくつかから弥生時代後期から終末期の土器が出土した。

向日市南条遺跡では、弥生時代後期の五角形竪穴式住居跡が確認された。規模は4.5～4.6mである。乙訓地域では、長法寺谷山遺跡、井ノ内・今里遺跡について3例目である。

長岡京市域では、神足遺跡(長岡京跡右京696次)で方形周溝墓を、開田城ノ内遺跡(長岡京跡右京699次)と今里遺跡(長岡京跡右京701次)、東代遺跡では土器や石鏃、石庖丁などが出土した。

八幡市内里八丁遺跡では、弥生時代後期の竪穴式住居跡が確認され、集落域が想定より更に西方に広がっていたことが判明した。

久御山町市田齊当坊遺跡第4次では、竪穴式住居跡3基、貯蔵穴1基、方形周溝墓8基以上、長楕円形あるいは隅丸長方形の土坑10基などが確認された。竪穴式住居跡は、一部方形周溝墓によって削平されている。埋土から碧玉管玉未製品や、サヌカイト製石針などが出土し、工房跡と推定される。中期初頭～前葉の土器が出土した。同町佐山遺跡では中期中葉に碧玉を素材とした玉作りを行っていた竪穴式住居跡が確認された。京田辺市三山木遺跡では、前期の溝が確認された。同市稲葉遺跡では、石庖丁2点が出土した。

木津町木津城山遺跡では、後期の竪穴式住居跡や段状遺構などが検出された。木津町赤ヶ平遺跡では、前期の竪穴式住居跡1基や、サヌカイト剥片を廃棄した土坑などが検出された。

3. 古墳時代

丹後町愛宕神社古墳では、7世紀初頭に築造された横穴式石室墳が確認された。出土遺物は碧玉製切子玉・平玉などである。

宮津市東禅寺古墳群では、古墳4基が調査された。1号墳はもっとも高所に築かれた長軸21mの円墳である。墳頂部で3基の埋葬主体を検出された。主体部は箱形木棺と考えられる。木棺底中央で、径約3.6cmの小型の櫛歯文鏡が検出された。古墳時代前期である。加悦町入谷西A-20号墳は、東西23m、南北16mの長方形墳で、舟底状木棺1基の他、主体部9基が検出された。

園部町下金沢古墳では、削平された古墳の一部が確認された。周濠幅は2.5～3mで、この中から円筒埴輪が出土した。この形態から中期末～後期初頭頃と考えられている。主体部などは調査地外で内容は不明である。八木町池上遺跡第11次調査では、後期の竪穴式住居跡と方形周溝墓が確認された。第12次調査では、竪穴式住居跡20基以上、掘立柱建物跡や土坑などがある。珍しい遺物としては鉄製馬具の部品や陶棺片がある。

亀岡市杉北遺跡では、竪穴式住居跡3基が確認された。亀岡市保津車塚古墳(案察使1号墳)は、中期の前方後円墳であることが判明した。墳丘はかなり削平されていたが、水田下に後円部をめぐる2重の周濠や濠内に造営された陸橋部などを検出した。出土遺物として石見型の楕形木製品がある。京都府内で初の出土である。

向日市五塚原古墳では、葺石は前方部の最も下側の斜面に、平らな葺石が縦長に据えたことが判明した。また、全長91.5m、最大高8.5mと判明した。長岡京跡今里遺跡(右京第701次・711次・716次)では、竪穴式住居跡や土坑、溝が確認された。土師器の他、埴輪も出土した。

大山崎町下植野南遺跡では、標高8m以下の低湿地において前期の集落跡を確認した。土辺地区では、第4トレンチから町内では珍しい埴輪を設けた古墳が確認された。

八幡市荒坂横穴群B・C支群で22基の横穴が調査された。出土遺物は、須恵器・土師器を始め鉄刀や鉄鏃の他、馬具、ガラス小玉などがあり、近隣の女谷横穴群に比べて種類や量が豊富である。女谷横穴C支群では、横穴8基が調査された。C支群は丘陵の北側斜面に造られ、北方向に開口する。全ての横穴の玄室天井部は崩落していたが、残存する奥壁や側壁の形状から、アーチ状を呈し、約1.5～2mの高さであったことが推測される。玄室の平面形態は細長いフラスコ形である。出土遺物としてヘルメットのような形をした珍しい土師器杯や金環などがある。

宇治市寺界道遺跡では、後期の竪穴式住居跡2基が確認され、滑石製の紡錘車1点が出土した。二子山古墳に関する集落ではないかと推測されている。宇治市観音山古墳では、試掘調査の結果、直径46.5mの円墳であることが判明した。精華町椋ノ木遺跡では、前期末の竪穴式住居跡4基、掘立柱建物跡1棟が確認された。

4. 飛鳥・奈良時代

舞鶴市女布遺跡では、飛鳥・奈良時代前半にかけての計画的に配置された5棟の掘立柱建物の倉庫跡が検出された。

八木町池上遺跡では、奈良時代の大型掘立柱建物跡が確認された。規模は東西8間以上、南北2間である。

京北町高梨遺跡では、奈良時代の竪穴式住居跡5基が確認された。出土遺物は須恵器・土師器の他、鉄製品もあった。また、平安時代の緑釉耳皿もある。遺跡の東隣には白鳳時代からの周山廃寺があり、これに関連する施設と考えられる。

亀岡市池尻廃寺第6次調査では、以前の調査で寺域の南限と西限が確認されているが、今回は東限が確認された。これで東西は約135mと判明した。しかし、南北については北限が確認されていない。同市史跡丹波国分寺跡の第14・15次調査では、寺域の北限築地の側溝が確認され、奈良東大寺に次ぐ大きい寺と判明した。

長岡京市長岡京跡右京第697次調査・東代遺跡では、上層と下層の2層が確認された。下層の遺構の方位は北に向かって西へ約15度から20度振れている。掘立柱建物跡や井戸(縦板組横棧留め)や溝が検出された。包含層から出土した土器には「大家」と墨書されていた。

久御山町佐山遺跡では、数は少ないものの奈良時代の掘立柱建物跡・溝・土坑が検出された。溝S D170は幅1mの南北方向の溝である。方位は真北に対して東へ3度振っている。この溝の位置は、坪内の一段を限る地割り線とおおむね一致する。すなわち、坪境線から西へ21.8mである。

八幡市美濃山廃寺・同下層遺跡の範囲確認調査で、奈良時代の溝や掘立柱建物跡を検出した。同市内里八丁遺跡では、平行して掘削された溝3条が確認された。溝の内S D205と258は、これまで道路状遺構の両側溝と考えられてきた遺構の延長であるが、この間にあるS D247も、両側溝と同時期に機能していた期間のあることが判明した。この遺構を道路状遺構と見るか、水利に関連するものとみるか、今後詳細な検討が必要となった。

京田辺市三山木遺跡では、奈良時代の斜行する溝が確認された。奈良時代の山陰道・山陽道併用の道も斜行しており、官道に規制された地割りに関わるものと考えられる。

精華町里廃寺は、白鳳時代の寺院跡とされている。今回初めて発掘調査がなされ、瓦積み基壇が確認された。基壇は地覆石を持たないタイプであるが、一部で平瓦を立てた状態もあり、全国的に見ても珍しいものである。遺物は整理箱で約300箱出土しており、その大半は瓦である。軒瓦は20点以上確認されており、木津川対岸の山城町にある、高麗寺式(白鳳時代)の瓦である。

井手町井手寺跡・栢ノ木遺跡は、今回初めて発掘調査が実施された。井手寺は、奈良時代の橘諸兄が創建したと伝えられている。調査の結果、東西8間以上(10尺等間)の掘立柱建物跡の柱筋が1列確認された。寺域の北西部に位置する塀や僧坊などの施設が想定できる。また、調査地の西端は一段低くなっており、寺域の西端と思われる。

恭仁宮の調査では、東側内裏の南辺と南西角で築地の基壇跡が検出された。

5. 平安時代

亀岡市太田遺跡では、平安時代後期の素掘り井戸(3×4mの不整形な隅丸長方形)と鎌倉時代前期(桶を転用した枡あり、直径0.55m)の井戸が確認された。

京都市雲林院跡では、平安時代前期の庭園の一角を構成する苑池跡や楼閣状建物、井戸、土器だまりが確認された。地名の由来となった雲林院に関する遺構、あるいはその前身といわれる淳和天皇の離宮紫野院の可能性がある。

京都市平安京右京六条三坊跡では、平安京造営間もない頃の川跡が確認された。馬の骨(4～5歳の雄馬十数頭分)や桃の種子、人形、木簡(「讃岐国苅田郡白□」)の他、篆刻の木印1点が出土した。「印」?という刻印が認められる。印の縦は4.3cm、横3.5cmで印面に朱泥がある。

JR二条駅の隣地の調査では、平安京跡朱雀大路の西端の路面と側溝が確認され、道路整地のための拳大の石が約50cmの厚さで敷かれていた。時期は平安時代初期に遡る。大路は長さ90mにわたって確認され、過去の東側溝の調査成果とあわせると、幅員84mとなる。なお、側溝の埋没時期は出土土器から平安時代末期頃と推定された。また、右京職とみられる建物跡と井戸も確認された。朱雀大路西側溝の検出により、右京職の東限が確定し、内部の詳細な建物配置などの検討が可能となった。

京都大学全学共通教育棟新築工事に伴う調査では、近畿地方初出土となる12世紀の九州型青銅製経筒を伴う経塚遺構、中世大溝、柱穴列を確認した。史跡旧二条離宮(二条城)では、平安時代後期の冷泉院の遺構を確認した。

京都市寂光院では、6つの礎石が検出された。出土土師器から、平安時代末期以前の建物遺構とみられる。平安時代末期には、現在の本堂よりやや小振りの建物があり、さらに上層に現在の礎石があり、地鎮のための陶器壺があった。今回焼失したのは桃山～江戸時代初期に建てられたと確認された。

向日市長岡宮跡第409次調査では、朝堂院西第4堂、南門、南面回廊の調査が実施された。この内、朝堂院西第4堂は11間と推定されていたが、10間であることがほぼ判明した。また、基壇の規模も東西150尺、南北55尺であることが判明した。

向日市長岡京跡左京第463・464次調査では、推定北京極大路の両側溝(溝心々間9.2m)を検出した。この大きさから本来幅24～30mある大路ではなく、小路規模であることがわかった。出土遺物の中には須恵器杯部外底面に「伊勢□」と墨書されたものもあった。長岡京市長岡京跡右京第713次で確認された長岡京期の溝S D09は幅1.5mを測り、ここから荷札木簡「久米(郡?)白□」が出土した。また、溝南方では、しがらみ構造の施設が杭列3列を伴って検出された。

長岡京市長岡京跡右京第723次・728次調査では、三条大路の南側溝や、西二坊坊間西小路西側溝が確認された。遺物には「中」「弟」と墨書されたものも検出された。

長岡京市長岡京跡右京第704次調査・井ノ内遺跡では、平安時代後期の鍛造剥片や湯玉などが出土し、鍛冶関連遺物が検出された。

京田辺市古屋敷遺跡では、平安時代の溝や井戸が確認された。井戸は直径1.4m、深さ1.6mで、

底には曲物が置かれてあった。遺跡は木津川の西隣の自然堤防上に立地しており、西端では西へ傾斜しており、自然堤防から後背湿地へ移行する地点と思われる。

宇治市矢落遺跡では、平安時代後期の邸宅、庭園跡が南北2か所で確認された。南側からは平安時代から室町時代のものと見られる柱穴が約460基見つかった。平等院からも出土している河内系の瓦が出土した。北側からは苑池や庭石と浜辺をまねたといわれる「洲浜」が確認された。

精華町椋ノ木遺跡では、平安時代後期の土坑の他、この南側には東北方向の素掘り溝を確認した。耕作地が広がっていたことが知られる。出土遺物としては土師器皿、瓦器碗の他、中国製白磁碗や褐釉四耳壺がある。

6. 鎌倉・室町時代

野田川町幾地蔵山遺跡第14次調査では、中世の石仏で囲まれ五輪塔を据えた特異な構造の塚墓が確認された。塚墓は3m四方で中央に火葬骨を入れた須恵器壺が据えられていた。亀岡市杉北遺跡では、鎌倉・室町時代の掘立柱建物跡4棟が確認され、遺物は瓦器碗や皿、緑釉陶器、中国製は白磁碗などが出土した。

綾部市絵熊遺跡では真言密教系の寺院で使われた仏具の五鈷杵が出土した。周辺から出土した土器片から鎌倉時代と推定された。長さ14.7cm、重さは176.8gである。

京都市仁和寺の付属寺院跡では、四方を石敷の溝に囲まれた南北約20m、東西15mの建物跡(3間×2間)が確認された。この東側中央部は幅5mで約2.5m東へ張り出す廂が確認された。向拝と呼ばれる施設である可能性がある。鎌倉時代に廃絶したことが知られる。この他、平安時代後期の木製車輪の部材2点が出した。

京都市方広寺大仏殿跡では、中世の墓石や石仏が約130個発見された。柱の礎石を安定させるため、下に敷き詰める「根固め石」に使ったのではないかと推測された。京都市平安京跡右京六条、JR丹波口駅西側での調査では、貴族の邸宅内で仏像を安置した「御堂」とみられる鎌倉時代始め(13世紀前半)の建物跡が確認された。平安京内では当初東寺、西寺以外の寺院建設が禁じられているが、貴族が邸宅内に御堂を建てたことは日記から知られていた。しかし、発掘調査で確認されたのは初めてである。石の配置から7m四方の御堂ではないかと推測されている。

京都市山科本願寺南殿跡では、南殿跡の堀、土塁、掘立柱建物跡、柵列が検出された。京都市東寺(教王護国寺)子院跡では、室町時代の建物や井戸、溝が検出された。京都市二条家押小路跡では、室町時代の庭園跡が検出された。

大山崎町下植野南遺跡では、調査の結果、道路遺構を約100m分検出した。現地地表下約1.7mで2条の溝を検出した。道路は北に向かって約45度東へ振れている。両側溝の心々間は約10mである。時期は中世前半以前である。これらの溝が埋没した後に、その上に盛土をして構築された道路遺構を確認された。なお、現代の改修を除いて3回の大規模盛土が確認できた。道路の裾幅約6m、路面幅約2mである。時期は中世後半以降である。

八幡市上津屋遺跡では、鎌倉時代後期から室町時代にかけての大規模な環濠屋敷跡が確認され

た。溝は幅5～10m、深さ1.1～1.5mが3本、条里の区画に沿って約100m四方に広がっていた。「足金物」1点が見つかった。銅製で縦約5.5cm、幅3.5cm、太刀の鞘を腰に固定させる金具である。

久御山町佐山遺跡では、幅11mの巨大な濠を確認した。鉄製の短刀(柄と鞘に黒い漆塗りを施している)が出土した。また、濠の中には牛骨と馬骨があった。更に、柿経(妙法蓮華経)1点の他、形代(人形、鎌形など)、下駄、漆器椀なども出土した。なお、B-1地区SD5からは「政所」と書かれた墨書土器が出土している。平安時代後期の屋敷では国内最大級である。岩清水八幡宮の荘園があった地域であるので、荘官がいた可能性が指摘されている。

京都市常盤仲之町遺跡では、室町時代の屋敷を区画する溝を検出した。溝は幅1.2m、深さ0.5mを測り、主軸は座標北から西へ約70度振る。この方向は周辺の区画の方向と同じであり、これらが室町時代まで遡ることが確認できた。出土遺物には室町時代の古瀬戸花瓶がある。

八幡市木津川河床遺跡第14次では、下層は平安時代後期から鎌倉時代の素掘り溝群を、上層では室町時代の素掘り溝群と土坑3基を検出した。遺構面は、地震により部分的に隆起して波打っている状況であった。噴砂は、おおよそ南北方向に走るものがほとんどである。以前の調査により地震跡は1596年に起こった伏見大地震に該当すると考えられている。

木津町赤ヶ平遺跡では、ピットから和鏡が出土した。菊花鏡で、室町時代と思われる。

7. 江戸時代

京都市法蔵寺鳴滝の乾山窯跡では、一昨年8月からの調査で1万点をこえる陶器片などが出土した。窯体は見つからなかったが、境内で多量の窯壁片を確認し、すぐ近くに窯があったことが判明した。乾山の作品としては未確認のものもあり、磁器は失敗作と見られるが、さまざまな試みを繰り返していたことが分かる。

長岡京市近世勝龍寺城跡では、「コ」の字状の柵列が検出された。柱間寸法は1.6～1.8mである。柱穴の直径は0.4～0.7m、深さは0.4～0.7mである。これらの柱穴に囲まれた内側には、約20mの空閑地が確保されている。長岡京市乙訓寺表門の調査では、現在の本柱の円形礎石下から新たに別の礎石が確認された。円形礎石は柱を補修した際に追加されたもので、大掛かりな修理が行われたことがわかった。現在の乙訓寺は元禄八(1695)年に徳川綱吉の母桂昌院によって再興されたことが知られている。なお、門解体時に安永九(1780)年銘の棟札が発見されている。

京田辺市三山木遺跡第4次では、上層で中世および近世の溝や柱穴を検出した。また長方形の小規模な人工池を確認した。これは、地元が所蔵している寛政九(1797)年の年紀をもつ絵図によると、「クスハラ池」という池の名称が記されている。江戸時代の土地利用を知る上で貴重な資料となった。

なお、当調査研究センターが行った聚楽第周辺の調査で出土した金箔瓦が、国の重要文化財に答申されたことを付け加えておきたい。

(いの・ちかとみ=調査第2課調査第2係長)

せんせい かなん 陝西省・河南省の遺跡を訪ねて

—平成13年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会中国研修報告—

高野 陽子

1. はじめに

全国埋蔵文化財法人連絡協議会では、埋蔵文化財法人を対象に、毎年、合同の中華人民共和国への海外研修を実施している。当初、近畿圏の法人を対象にはじまった研修は、平成12年度から全国の法人に対象が広がり、平成13年度は、14団体から22名が参加した。

今回の研修では、咸陽から出発して西に移動し、洛陽・三門峡・鄭州などの主に中原に所在する遺跡や博物館を見学した。研修期間は平成13年11月30日～同12月7日までの8日間であった。当調査研究センターからは高野陽子が参加した。今回、掲載している写真は、高野が撮影したものである。

2. 研修の概要

今回の研修地について、以下、行程・内容の概要を日程ごとに報告する。

研修行程表

月日(曜日)	地名	研修地
11月30日(金)	東京・大阪 上海 咸陽	東京(成田空港)発—上海(浦東空港)着 大阪(関西国際空港)—上海(虹橋空港)着 成田組と関空組が合流し、結団式 国内線にて咸陽へ 専用バスにて宿泊地へ
12月1日(土)	咸陽 西安	咸陽：陽陵、陽陵考古陳列館、陽陵従葬坑、陽陵陵邑遺跡 陽陵陵邑遺跡にて発掘調査実習、発掘調査隊と交流 西安：陝西省歴史博物館
12月2日(日)	西安	西安：秦始皇帝陵陪葬坑K9801・K0006、秦始皇帝兵馬俑博物館 半坡遺跡博物館、陝西省考古研究所付属展示室
12月3日(月)	西安 三門峡	専用バスにて三門峡へ 三門峡：三門峡市博物館、虢国墓地車馬坑
12月4日(火)	三門峡 洛陽	専用バスにて灑池県へ 灑池県：仰韶村文化遺跡 洛陽：中国社会科学院洛陽考古博物館、洛陽博物館
12月5日(水)	洛陽 鄭州	洛陽：龍門石窟、洛陽市第二文物工作隊事務所表敬訪問 同工作隊による永寧寺跡発掘調査現場
12月6日(木)	鄭州 上海	鄭州：河南博物院 上海：上海博物館
12月7日(金)	上海 大阪・東京	上海(浦東空港)発 大阪(関西国際空港)着

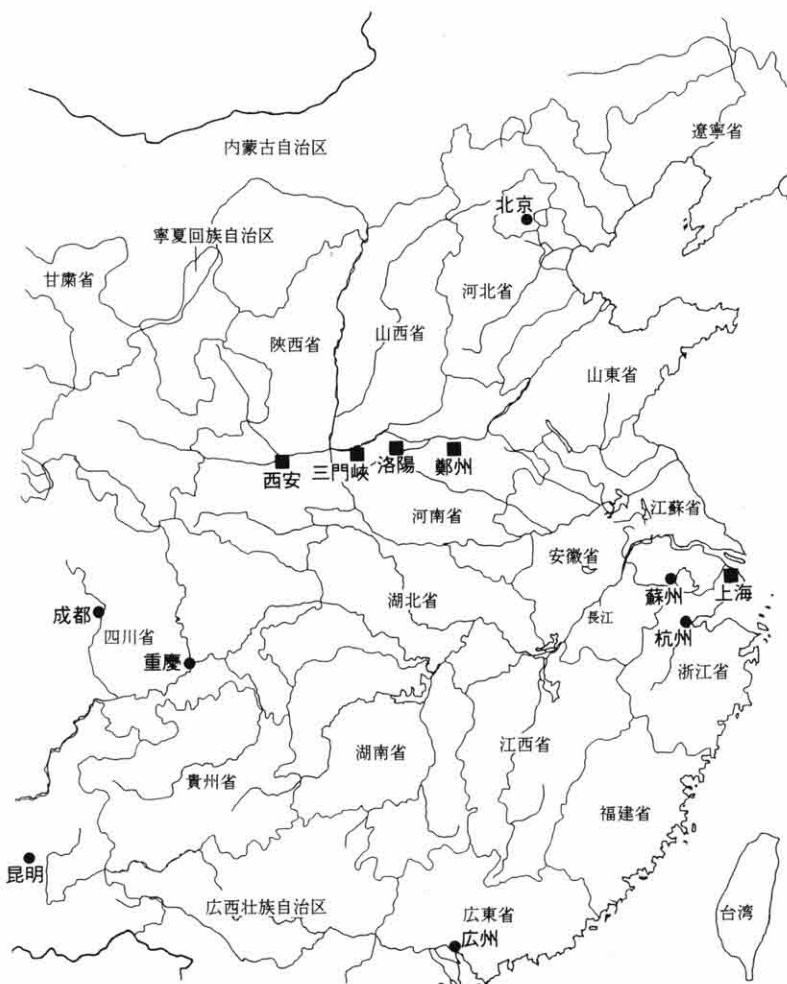
11月30日(第1日) 研修参加者は、関西国際空港と成田空港から出国し、中国上海虹橋空港と上海浦東空港にそれぞれ到着後、合流し、水野正好財団法人大阪府文化財調査研究センター理事長を団長として結団式を行った。結団式の後、一行は上海から空路、咸陽に向かい、午後9時過ぎに咸陽空港近隣のホテルに到着した。研修参加者のなかで、パスポートを持参していないため、関西国際空港で足止めされた方があり、いきなり波乱含みの研修初日であった。

12月1日(第2日) まず陽陵考古陳列館、陽陵従葬坑を見学したのち、陝西省考古研究所陽陵考古隊の発掘による陽陵陵邑遺跡において、発掘実習を実施し、発掘調査隊と交流した。午後、西安に移動し、陝西歴史博物館を見学した。

陽陵は、前漢第4代皇帝景帝の墓である。西安から咸陽にかけての渭水の左岸には、前漢代の11人の皇帝陵が築造されており、陽陵はこのうちの1つである。墳丘規模は、底辺で170×170m、高さ約35mを測り、陵域は東西10km、南北1～3kmとされる。陽陵関連遺跡の発掘は、1990年から空港道路建設にともなって発掘調査が行われ、この12年、継続的に周辺の陪葬坑や陵邑などの調査が行われている。墓室は未調査だが、これまでに81基の従葬坑の存在が確認され、このうち31基の従葬坑が調査されている。現在も、11基の従葬坑が調査中である。今回見学した従葬坑は、文人・騎兵など多量の人物俑と車馬が出土した17号坑と、山羊・牛・猪など多量の家畜俑が出土

した21号坑である。陽陵の人物俑や家畜俑は、秦の始皇帝の兵馬俑よりも約60年新しく、始皇帝陵の兵馬俑が実物大であるのに対して、陽陵では約3分の1の大きさで小さく作られていることに特色がある。17号坑と21号坑は、いずれも坑全体に覆屋をつくり、周辺にフェンスを張って厳重に管理されているが、高額の入場料を支払うことで一般にも見学が許されている。

陽陵の陵邑は、陽陵の東に広がっており、陵邑の規模は東西4.5km、南北1～2kmを測る。陵邑には当時約17万人が生活



第1図 研修見学地位置図(■が訪問地)

していたと推定され、長安城よりも人口は多かったという。陵邑の一部は、現在、陝西省考古学研究所陽陵考古隊によって調査中であり、今回の研修では考古実習として、考古隊の陵邑の調査に参加させていただいた。

訪れた発掘現場は約10,000㎡の大規模なものであり、前漢代から後漢末期までの各種の遺構の調査が行われていた。われわれの実習の対象となった遺構は、漢代の攪乱坑群の検出と、一部掘削であり、考古隊の調査研究員や周辺村落から参加している作業員の方々とともに調査にあたった。現場では、到着してすぐに研修対象となった地区に案内されたために、図化のための作業などは見学できなかったが、図化方法や撮影方法および機材などの違いを知りたいところであった。時間的制約から、遺構検出・掘削作業に主眼がおかれ、全体の調査方法や調査体制について、現場をまわりながら説明していただく時間を持てなかったのは少し残念であった。

12月2日(第3日) 終日、西安周辺の遺跡見学。午前中、小雨の降る中、石灰岩製の挂甲が出土した秦始皇帝陵陪葬坑K9801と文官俑が出土した同K0006、さらに秦始皇帝兵馬俑博物館を見学し、午後、半坡遺跡博物館・陝西省考古研究所付属展示室を見学した。

始皇帝陵は、陵域面積約56km²の規模をもつが、これまでに調査されたのはこのうち2km²にすぎず、過去の発掘やボーリング調査などで確認された600か所あまりの陪葬坑などの調査が、現在も継続的に行われている。K9801陪葬坑は、1998年に始皇帝陵の東南を13,000㎡にわたって調査している際、発見された陪葬坑である。隔壁で囲まれた坑内に石灰岩製の70点の挂甲、40点の冑が出土した。いずれも実物大の大きさで、一体あたり約1,000枚の石板が用いられている。挂甲は16kg、冑は4kgあり、重すぎることから、実用品ではなく、明器と考えているとのことであった。K0006陪葬坑は、2000年に調査された始皇帝陵西南隅の陪葬坑である。12人の文官や御者



第2図 陽陵<前漢第4代景帝陵>(咸陽)

車馬(馬骨出土)が出土した。文官は手に青銅の鉞(斧)、腕に竹簡、腰に竹簡を削る削刀を持っており、刑罰をつかさどる文官が出土したことで注目された。いずれの陪葬坑も、調査終了後、厳重に管理されており、一般の公開は認められていない。

陝西省考古研究所付属展示室は、同考古研究所で調査・保管している資料の展示室である。陽陵陪葬坑出土遺物、旧石器前期の龍牙洞遺跡出土遺物、春秋戦国時代の秦公大墓出土遺物や唐代の墳墓から切り取られた各種壁画など各時代の遺物が展示されている。

半坡遺跡博物館は、1954～1957年に調査された仰韶文化期(BC5000～6000年頃)の代表的な環壕集落である半坡遺跡を現地保存した博物館である。約10,000㎡を調査し、環壕(幅約6～7m、深さ約4m)のほか46基の住居跡、250基の墓などが調査されており、この一部が、現地で展示保存されている。遺構のなかでは、特にV字形環壕の規模の大きさと防御性の高さに驚かされた。

12月3日(第4日) 午前中は、専用バスによる移動に当てられ、一路、中原地域の都市、三門峡に向かった。到着後、三門峡市博物館・虢国車馬坑を見学した。

三門峡市博物館は、1989年9月に開館した博物館で、三門峡ダム建設の際に調査された遺跡など、主に三門峡市で出土した遺物を収蔵展示している。約19,800㎡の敷地と約4,400㎡の展示スペースを有しており、地方都市の博物館としては屈指の規模をもつ総合博物館である。展示室は時代ごとに6つの区画からなり、通史的にこの地の歴史的文物が見学できるように配置されている。第1区分の中心的な展示は、仰韶期の代表的な遺跡である廟底溝遺跡にかかわるものであり、未公開遺物が一括展示されている。第2区分では、特に商・周代の鼎・編鐘・武器類など多種多様な青銅器類、西周期の虢国都城関連遺物・虢国墓地出土の青銅器などが展示されている。この



第3図 三門峡市博物館

地は商・周の統治の中心区域であり、多様な青銅器類は、本館の中心的な展示遺物となっている。また虢国関連の貴族墓出土の青銅器も多数展示されており、商・周から春秋・戦国期までの青銅器類の変遷をみることができる。また春秋期の虢国都城関連遺物では、李家窑出土の陶製排水管が展示されており、虢国の都市建設および土木関連技術の水準の高さを示すものとして注目された。第3区分では、漢代の鉄鋤・鑄造鉄斧などの鉄製農工具類や鉄錘などの鑄型、魏晉南北朝期の陶俑・緑釉陶器・緑釉陶楼などが展示されていたが、特に注目されたのは、灑池県冶鉄遺跡と呼ばれる前漢代の鉄官址(官営の冶鉄工房)の出土遺物であった。鉄製武器・鉄製農工具・鉄製鑄型など約60種、4,000件あまりの鉄器や焼結鉄・鉄滓が出土している遺跡で、『漢書地理誌』弘農郡下条に「在灑池有鉄官」とされる前漢の官営工房址である。全土に約30程度あったとされる鉄器製作の官営工房のうちの一つであり、日本の鉄器研究者のなかでも注目されている遺跡であるが、残念ながら報告書などは刊行されていない。展示遺物のなかでも、特に鑄造鉄斧は、福岡県御床松原遺跡・広島県西願寺墳墓群・鳥取県青谷上寺地遺跡にも類例があり、細かくメモをとる姿がみられた。

虢国墓地は、春秋期の虢国(B C 655年滅亡)の墓地群であり、1956年以来、黄河ダム考古工作隊が調査し、3つの車馬坑と234基の墓を発掘した。以来、何度かの調査が行われ、国守である虢仲・虢季墓や数々の貴族墓が調査された。我々が見学した車馬坑は、1990年に発掘調査された貴族墓付属の車馬坑で、周代のものとしては国内最大の車馬坑である。坑内では、車5台のほか馬10匹が横たわった状態で出土し、現地でそのまま保存されており、一般にも公開されている。

12月4日(第5日) 三門峡から、専用バスにて出発し、片道約2時間をかけ、灑池県の仰韶村



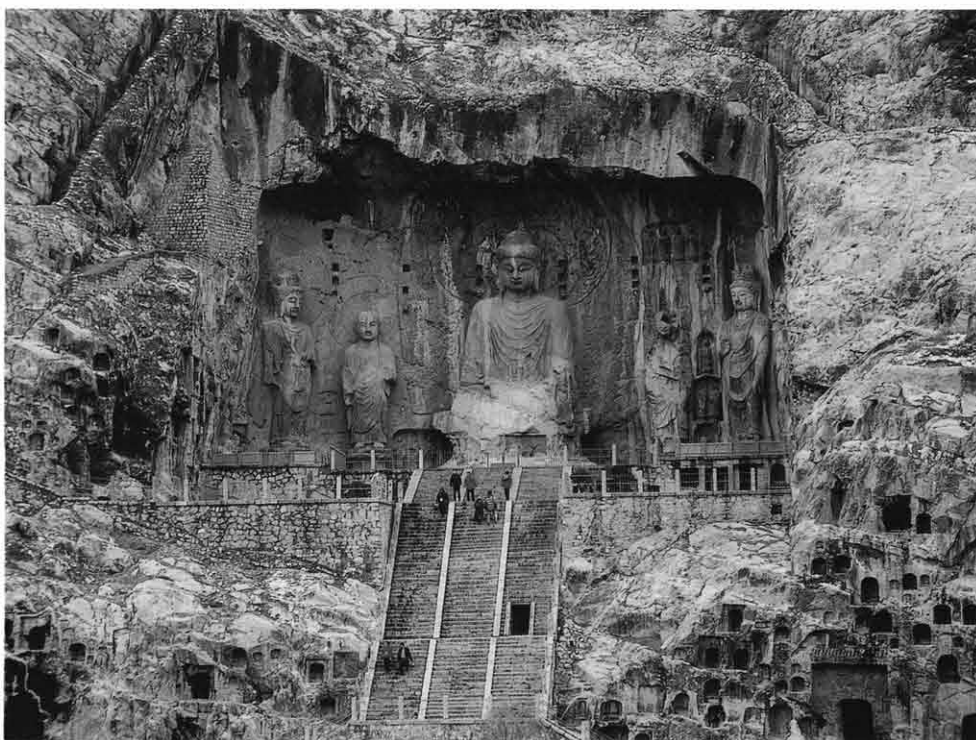
第4図 仰韶遺跡調査トレンチ壁面(灑池県)

文化遺跡に到着。見学後は、一路、洛陽に向かい、中国社会科学院考古研究所考古博物館洛陽分館・洛陽博物館を見学した。

仰韶村文化遺跡は、新石器時代中期を代表する遺跡であり、1921年にスウェーデンのアンダーソンが発掘し、学会に紹介した。その後の再調査で、下層2層が仰韶文化で上層2層は、黄河中・下流域でその後に発展した龍山文化期に属することが判明した。仰韶文化の遺跡は、主として陝西省の関中・河南省・山西省南部・河北省南部などに分布し、中国ではすでに1,000か所を超えるまでになっているという。現地では、発掘調査したトレンチ壁面を取り込んで、展示用の建物が建てられており、遺跡の堆積層とともに出土遺物の一部を見学することができた。

中国社会科学院考古研究所の考古博物館洛陽分館では、王湾遺跡・偃師商城・漢魏洛陽城・隋唐の洛陽城の出土遺物などが展示の中心であった。王湾遺跡は、1959～1960年に発掘調査された洛陽市西郊の台地上にある遺跡である。当時、相対年代の上で問題となっていた廟底溝2期文化が、仰韶文化期から龍山文化期をつなぐ過渡的なものであることが判明した遺跡で、彩陶をはじめとする各期の遺物が展示されている。また偃師商城は、偃師西南部で発掘され、大形の建物跡が発掘された商代初期の城址であり、湯王が都城として居住した「西亳」とも伝えられる遺跡である。出土遺物のなかでも、灰陶は5期区分されており、編年が理解できるように時期ごとに主要な型式が展示されている。漢魏洛陽城の関連遺物は、顎面施文瓦や各種瓦当など、瓦類を中心に展示され、また隋唐の洛陽城関連遺物は、塑像を中心とした展示であった。

12月5日(第6日) 午前中、龍門石窟を見学。午後、洛陽市第二文物工作隊事務所を表敬訪問し、同工作隊の最近の調査のなかでも特に注目される遺跡や、1997年に発掘された洛陽と長安を結ぶ黄河の水運の上で重要な位置を占めていた小浪底ダム関連遺跡の発掘調査などについて説明



第5図 龍門石窟(洛陽)

を受けた。その後、永寧寺跡の発掘調査現場を案内していただいた。

龍門石窟は、莫高窟・雲岡石窟とともに、中国三大石窟の一つであり、洛陽郊外の伊河兩岸の崖上に1,352の石窟が現存している。開削は、北魏孝文帝の洛陽遷都前後で、五代と宋初にも掘削は続けられたが、約9割以上は、北朝と唐代の窟龕とされる。現在、周辺の街区を大規模に整備しており、一帯のさらなる観光地化を目指しているようである。

永寧寺は、516年に建立され、534年に焼失した北魏時代の仏寺である。洛陽城の南門の西南約1kmの地点にある。伽藍は南北約305m×東西約215mの規模を測る。寺院の中心部には、方形の塔の基壇が1か所あり、現高約5mを測る。1979年以来、塔基壇の発掘が行われ、基壇の平面形が正方形で、上下2層の基壇にわかれること、下層基壇は東西約101m、南北約98mを測り、版築の厚さは2.5m以上に達することが判明した。見学した際には、1辺約38.2mの方形の上層基壇を整備復原中であり、現存高約2.2mの版築を見学することができた。

12月6日(第7日) 午前中、鄭州の河南博物院を見学。午後、上海へ移動し、上海博物館を見学した。

河南博物院は、商代の遺跡の遺物を中心的展示としているだけに、建物も青銅器を模しているとのことで、ユニークな建物外観が目を引いた。主要展示の一つである鄭州二里岡遺跡は、安陽殷墟より早期の商代遺跡である。館内では、二里岡下層・上層とされる文化期の標識資料とされる各種の灰陶を見学することができた。また、商代の城郭版築が検出された鄭州商城に関する遺物も多く、商代前期の早期青銅器が一括して展示されている。

上海博物館は、新館となってからは初めての見学であったが、展示の在り方が様変わりしており、驚くばかりであった。展示は、青銅器室、玉器室、貨幣室、陶磁器室というように、テーマ



第6図 永寧寺跡発掘調査現場(洛陽)



第7図 河南博物院(鄭州)

別に分かれた美術館的な展示であり、特定の遺物を詳しく見たいという見学者には都合が良いが、通史的に理解することは難しく、また視覚的なインパクトの強い遺物の展示に偏る傾向があるようにも思われた。上海博物館は、青銅鏡の素晴らしいコレクションを持っていることで知られているが、青銅器室では商代から春秋・戦国期までの大形青銅器を中心に展示され、前漢鏡・後漢鏡などの展示がなかったのは非常に残念であった。

12月7日(第8日) 上海空港から午後の便で出国し、15時30分に関西国際空港に到着。関西国際空港で解団式をし、鉄道在来線や航空国内線を乗り継ぎ、それぞれ帰路へついた。

3、研修を終えて

今回の研修は、西安の秦始皇帝陵や洛陽の龍門石窟などの日本国内でもよく知られた遺跡が含まれていたが、始皇帝陵では一般公開されていない陪葬坑の見学があり、また陽陵では発掘実習が行われ、専門研修として工夫の凝らされた内容であった。陝西省考古研究所の発掘する陽陵陵邑遺跡で行われた発掘調査実習は、わずかな時間ではあったが、実際に中国の発掘調査を体験し、担当者と意見交換することができ、大変有意義な研修となった。中国の発掘現場は、かつては見学さえも困難であったと聞いていただけに、受け入れ側の陝西省考古研究所の方々と関係者のご尽力によって、発掘実習が実現できたことを深く感謝したい。

(たかの・ようこ＝調査第2課調査第3係調査員)

20. 新堂池古墳群

所在地 船井郡園部町新堂天野2～6
調査期間 平成13年12月10日～平成14年2月8日
調査面積 約230m²

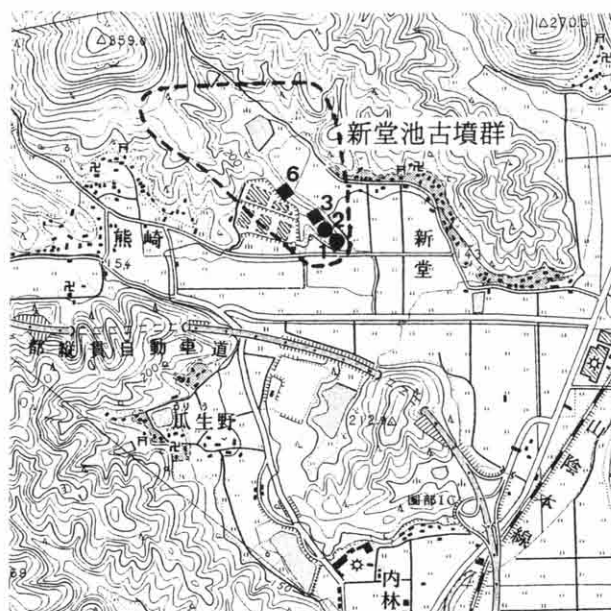
はじめに 今回の調査は、南丹地域農用地総合整備事業農業用道路建設に伴うもので、緑資源公団の依頼を受けて実施した。調査地は、園部の市街地から北方約2.7kmの、北側の山地から南東方向に延びる丘陵部に位置する。新堂池古墳群は10基程度古墳群であるが、そのうち1・2・3・6号墳の4基が事業地内に含まれている。そのため、各古墳の残存状況などを確認することを目的として試掘調査を実施した。また、古墳間の緩傾斜地2か所についても試掘(A・Bトレンチ)を行った。

調査概要 1号墳は、丘陵稜部に築かれた直径約12mの円墳である。墳頂部から墳丘東半部にかけて、盗掘により大きく崩されている。内部主体は、東側に開口する横穴式石室である。この古墳では、玄室奥壁部の石材を確認した。玄室側壁部でも、壁体を構成するとみられる石材とその背後の掘形を検出した。開口部では羨道両側壁の石材を検出した。また、周溝の一部を検出した。

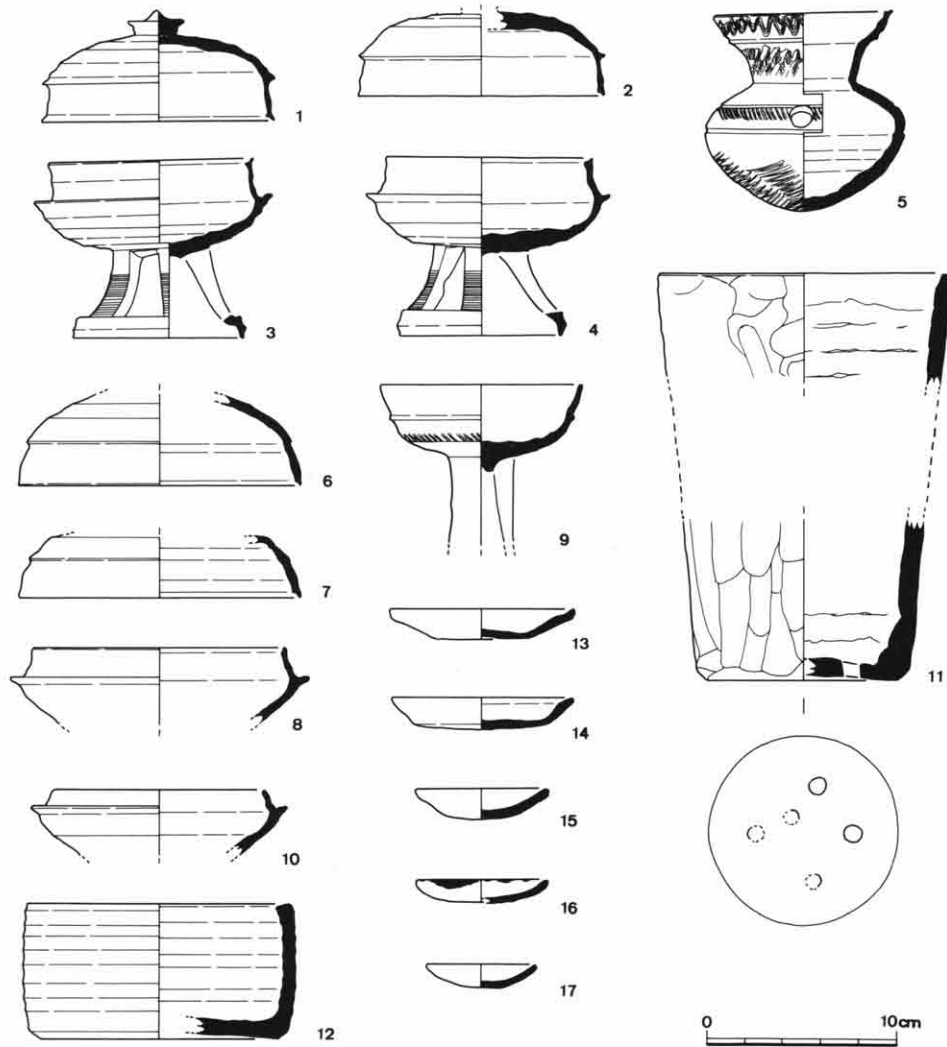
出土した須恵器片は陶邑編年のTK10型式併行期のものとみられ、この古墳が丹波地域でも古い段階の横穴式石室を持つ古墳である可能性を示す。盗掘坑からは、中世～近世の土師器・瓦質土器・陶器などが出土した。

2号墳は、丘陵稜部に築かれた直径約13mの円墳である。墳頂部東よりに盗掘坑がある。木棺直葬墳とみられる。墳頂部には3か所の主体部とみられる土色の変化が認められる。主軸は丘陵の稜線に平行しており、ほぼ東西方向である。この古墳の北裾部から出土した須恵器片は、ほぼ6世紀中葉頃のものと思われる。

3号墳は、丘陵稜部に築かれた約10×10.5mの方形墳である。木棺直葬墳とみられる。墳頂部で、主体部とみられる土色変化を3か所確認した。そのうち2か所は、主軸が尾根線に平行しており、ほぼ東西方



第1図 調査地位置図(1/25,000)



第2図 出土遺物実測図

1～5：6号墳、6～9・11～17：1号墳、10：Aトレンチ

向である。墳頂部西側のものは、主軸が尾根線に直交しており、ほぼ南北方向である。この古墳からは出土遺物がないため、時期は不明である。

6号墳は、丘陵斜面部に「コ」字状に周溝をめぐらせ墳丘を造り出す。約10.5×9 mの方形墳である。木棺直葬墳とみられる。墳頂部で、主体部とみられる土色変化を2か所確認した。主軸は尾根線に平行しており、ほぼ東西方向である。

墳頂部を掘削中に、表土下から須恵器有蓋短脚高杯3個体と甕1個体などが出土した。高杯は立った状態であり、墓上に供献されたものと考えられる。陶邑編年のTK47型式併行期のものとみられる。また、主体部状の土色変化部分から、上記須恵器よりも古いとみられる土器片と鉄製品1点が出土した。

Aトレンチは1・2号墳間の緩傾斜地に設定した。遺構は検出しなかった。

Bトレンチは2・3号墳間の緩傾斜地に設定した。2・3号墳の周溝とみられる溝を検出した。

まとめ 今回の調査では、各トレンチで古墳に関連する埋葬施設や多様な遺物が出土しており、今後の調査が期待される。

(引原茂治)

21. ^{いけがみ}池上遺跡第12次

所在地 船井郡八木町池上小字子堤
 調査期間 平成13年10月24日～平成14年2月27日
 調査面積 約1,300m²

はじめに 今回の調査は、緑資源公団西部支社による南丹地域農用地総合整備事業に先立ってが実施された。池上遺跡は旧石器時代から近世までの複合遺跡である。これまでの調査では、多くの古墳時代の竪穴式住居跡・掘立柱建物跡、弥生時代中ごろの方形周溝墓が検出されている。

調査概要 発見された遺構は、各時期のものが重なり合って複雑な様相をみせている。以下に主要な遺構や遺物について時代ごとに説明して行きたい。

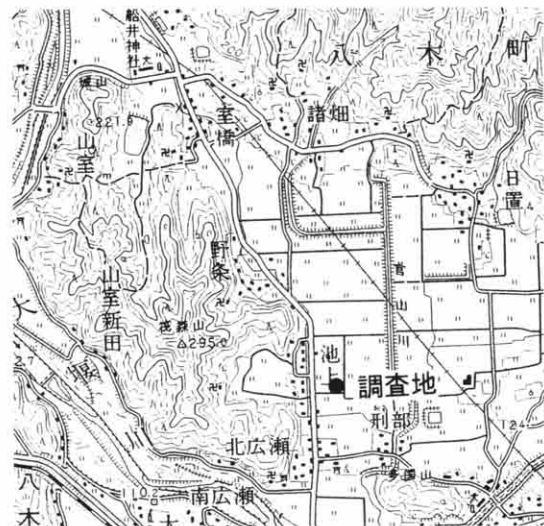
平安時代では、墓と考えられる土壇1基が検出されている。小型の柱穴には平安時代末期の土器が含まれているものもあるが、これまでのところ建物として復原できない。

奈良時代では、掘立柱建物跡と土坑が検出されている。掘立柱建物跡の1つは南北2間、東西9間以上の規模を持ち、この地域の中心的な建物の一つと考えられる。掘立柱建物跡の年代は、内部からの出土遺物が少ないため現在検討中である。出土遺物には須恵器、土師器がある。須恵器の中には円面硯も認められる。

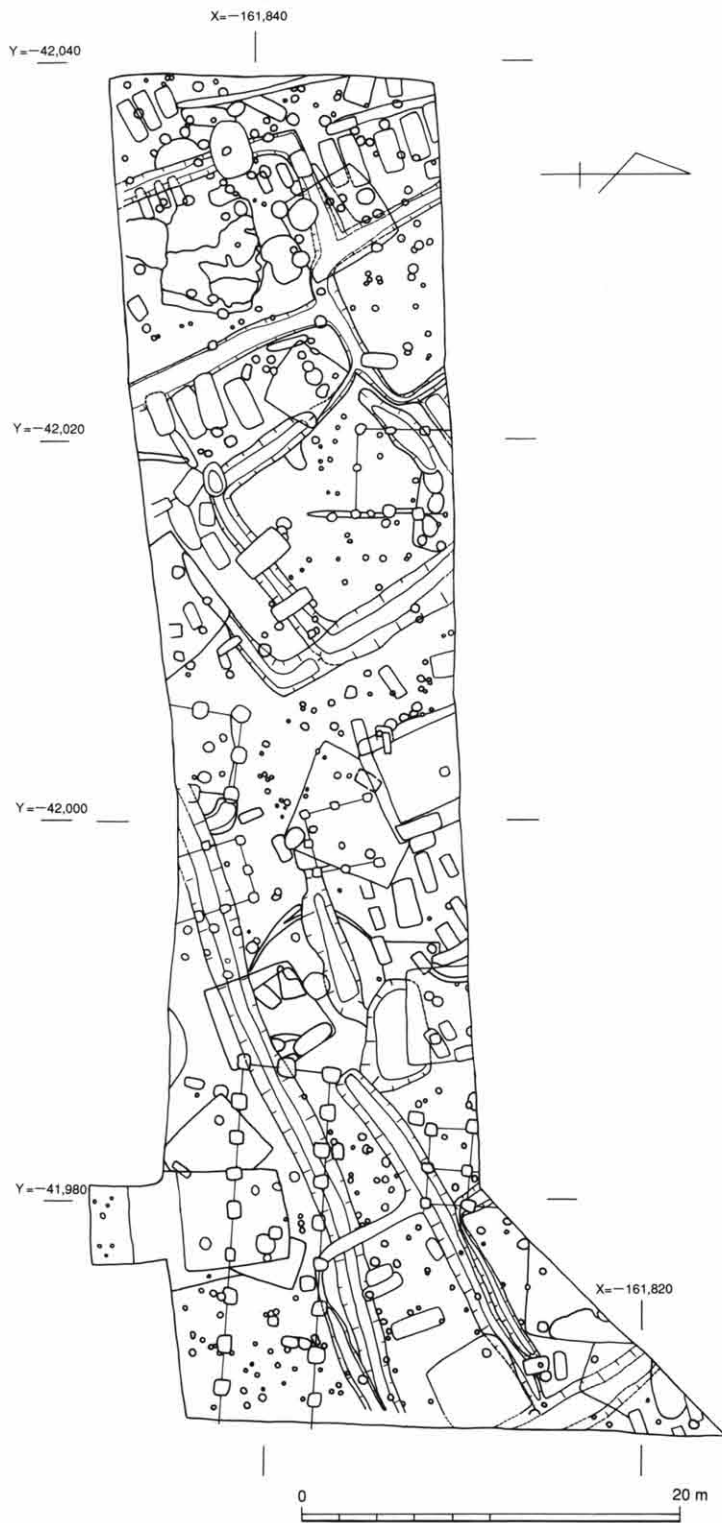
古墳時代では、古墳時代後期の竪穴式住居跡、掘立柱建物跡、土坑が検出されている。同じ場所で何回も住居の建て替えが行われたため正確な建物の数は検討中であるが、少なくとも20基以上の竪穴式住居跡が建っていたものと考えられる。掘立柱建物跡の中には竪穴式住居跡によって柱掘形が破壊されているものもあり、古墳時代以前の掘立柱建物跡が存在していることもわかった。出土遺物には土師器、須恵器のほかに、須恵質の陶棺、滑石製・碧玉の玉や鉄製の馬具の部品などが出土している。

弥生時代では、弥生時代中期の方形周溝墓、竪穴式住居跡、溝が検出された。調査区を北東から南西に貫く溝は集落の内と外を区画する溝と考えられる。竪穴式住居跡は2基検出されており、方形周溝墓は10基以上検出している。埋葬主体部は60基以上検出することができた。

出土遺物として弥生土器、石器(磨製石斧、石庖丁、石剣、石鏃など)、碧玉製の管玉やその未製品があった。粘板岩の断片が多く発見されていることから、磨製石器の製作が遺跡内で行われていたと考えられる。



第1図 調査地位置図(1/50,000)



第2図 遺構平面図

まとめ 今回の調査では、多くの時代の重要な遺構・遺物を検出することができた。奈良時代のまとまった遺構はこれまで検出されていなかったが、本調査区において2間×9間以上の東西棟の建物跡を検出した。このような建物は寺院や官衙に付属する建物にみられる特徴である。また包含層からではあるが円面硯も1点出土していることも、上記の仮説を傍証している。

古墳時代には周辺で多くの竪穴式住居跡が検出されているが、第4・5調査ではそれぞれ1棟ずつ独立棟持柱建物跡が検出されているが、今回は検出できなかった。今後の検討により古墳時代後期の集落構造を解明していく必要がある。また、土坑中から陶棺片が出土している。他に共伴遺物はなく、2次的な堆積と考えられるが、古墳が周囲にあったことを示している。

弥生時代の遺構の検討から、本調査区は集落の縁辺部にあったっていたが、溝が埋め立てられ住居域として利用された後、墓域となったことがわかった。また、方形周溝墓は作り替えられていることが、溝の切り合い関係などからわかった。

(中川和哉)

22. 案察使遺跡第4次

所在地 亀岡市保津町山田
 調査期間 平成13年11月26日～平成14年3月7日
 調査面積 約2,140m²

はじめに 今回の調査は「亀岡地区」における国営農地再編整備事業にかかる事前調査として実施した。案察使遺跡は、牛松山の山麓から平地に立地する遺物散布地で、東西約450m、南北約700mの範囲に弥生土器・土師器・須恵器などの土器片が散布している。

調査の概要 京都府教育委員会の試掘調査によって遺物包含層が確認された地点に、第1トレンチ約1,940m²を設定した。同じく石組み遺構と遺物を包含する地層が確認された南寄りの地点に、第2トレンチ約200m²を設定し、調査を実施した。

第1トレンチで検出した遺構は、楕円形や隅丸方形をした土坑や溝が大半である。なかでも土坑が多く、総数1,000基以上を確認した。土坑は2条の微高地に挟まれた、黒灰色粘土が堆積する低地部を中心に分布しており、埋土の観察から人為的に埋め戻されたものと、自然堆積したものがあることが判明した。また、土坑の壁がオーバーハングするものがみられる。これらの土坑内からは、弥生時代後期から終末にかけての完形の壺や甕、木製の農耕具などが出土している。

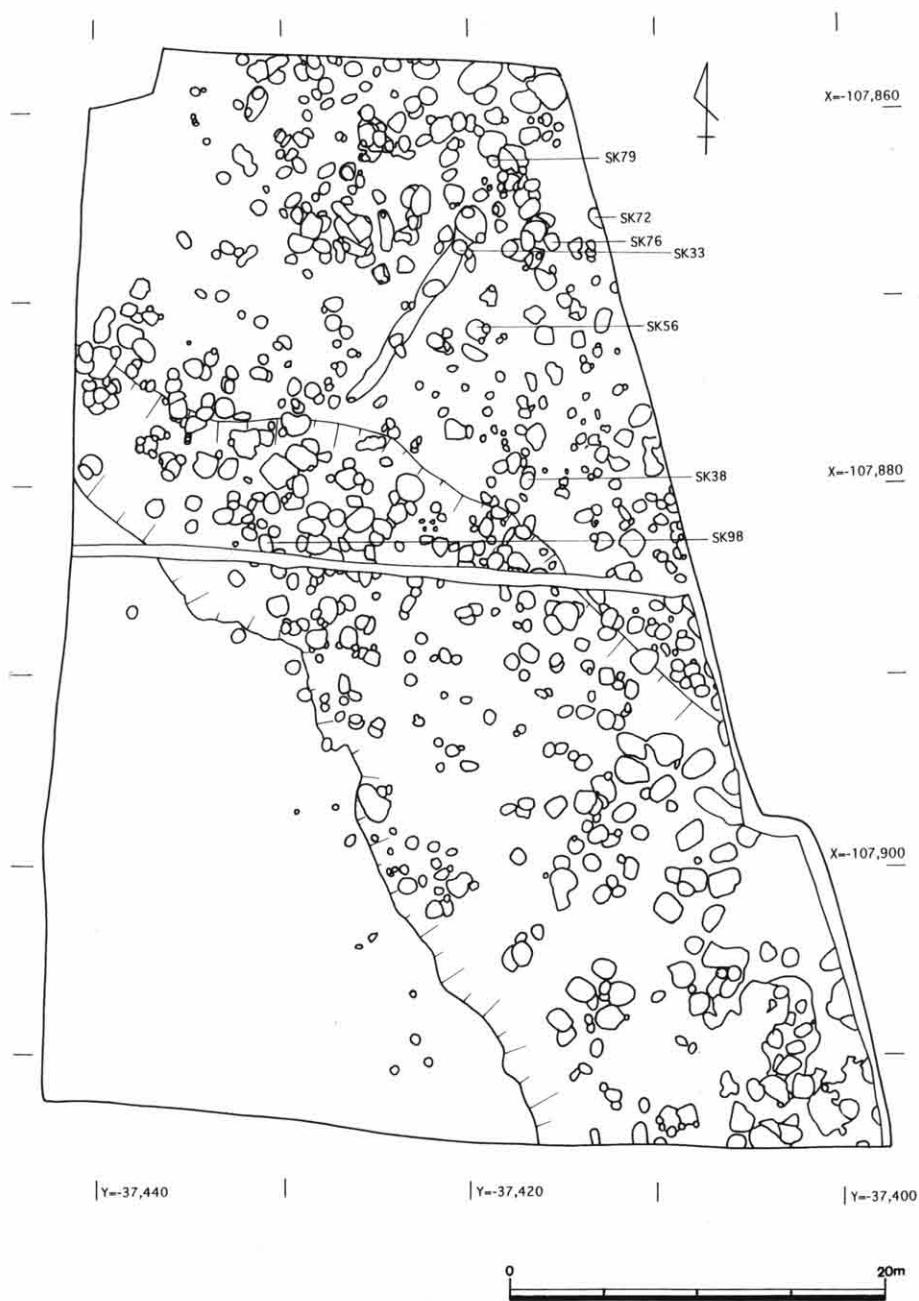
第2トレンチでは京都府教育委員会が試掘調査で検出した石組み遺構の延長と、その下層で古墳時代から近世までの遺物を含む地層を確認した。この地層の上層から、中国製の青磁の椀が出土し、下層からは、当調査地の東南約100mに所在する保津車塚古墳から出土している土器と同時代にあたる5世紀後半頃の須恵器高杯が出土した。

まとめ 今回の調査で検出した1,000基以上の土坑は、2つの帯状にのびる微高地に挟まれた谷地形に堆積した黒色粘土の部分にもっとも集中し

て掘削されており、なかには土坑の壁を横方向に掘り広げ、袋状を呈しているものも多い。さらに多くの土坑が小規模な土石流により一度に埋まっており、それ以前は埋め戻されていなかったことが明らかとなった。このような特徴や出土した遺物の中に鋤先があることからみても、これらの土坑の多くが土器製作などに用いられる粘土を採掘したものであると考えられる。ただし、第1トレンチの南端で、弥生後期の合せ口土器棺を検出しており、この他にも土器棺の可能性のある完形の甕が多数検出されている。このことから、この土坑群のなかには、墓に



第1図 調査地位置図(1/50,000)



第2図 遺構配置図

転用された土坑が含まれることは確実である。

今回の調査により、粘土採掘坑群を土器棺墓群に転用するという弥生時代後期後葉から終末の密集型土坑群の性格の一端が明らかとなる重要な資料を提供することとなった。

(福島孝行)

23. ^{おおた}太田遺跡第14次

所在地 亀岡市稗田野町太田
 調査期間 平成13年11月8日～平成14年2月12日
 調査面積 約1,200m²

はじめに 太田遺跡の発掘調査は、京都府農林水産部が施工する府営圃場整備事業に伴う事前調査である。平成11年度に京都府教育委員会が実施した試掘調査成果をもとに、第1トレンチでは面的な調査を実施するとともに、周辺に5か所のトレンチを設定して調査を実施した。

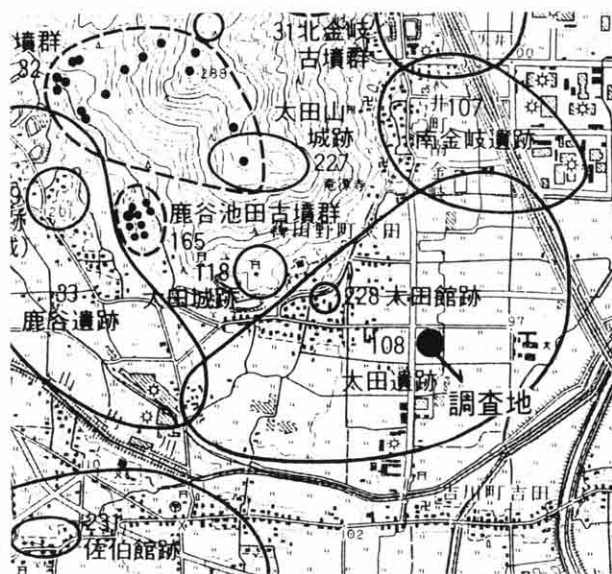
調査の概要 第1トレンチで検出した遺構には、弥生時代末期の池沼、溝、ピット、平安時代後期の井戸、鎌倉時代前期の井戸などがある。

弥生時代末期の池沼4は、ごく一部の検出であったが、堆積土中から多くの弥生土器が出土している。一方、溝48は、幅1.5m、深さ0.7mを測る断面「V」字形の流路である。溝内からは池沼4と同じく弥生時代末期の土器が多く出土している。溝の堆積土中に数層の砂層がみられることから、北東から池沼4への流れ込みを想定できる。なお、溝48の東側では、同時期の土器が出土するピット群を検出しており、弥生時代後期の集落の東端の状況を表わしている。

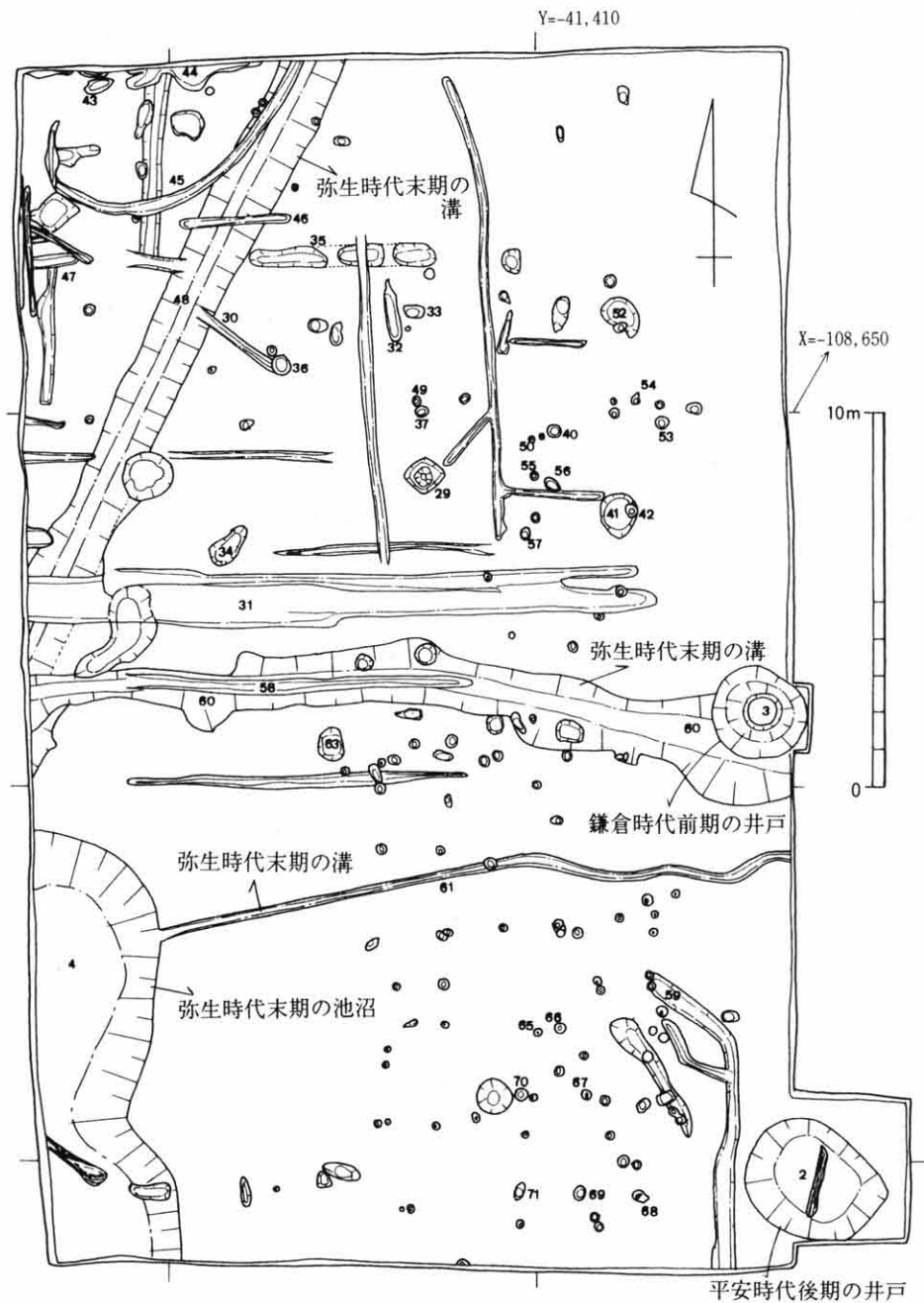
井戸2は、3×4mの不整形な隅丸長方形を呈しており、井戸内から平安時代後期の土師器や瓦器が多く出土している。井戸枠材は抜き取られており、残存していない。一方、井戸3は、直径1.2m、深さ1m、桶を転用した井筒の直径は0.55mを測り、鎌倉時代前期の土師器や瓦器が多く出土している。これら2基の井戸の西方には、直径0.2～0.4mの柱穴群を確認しており、平安時代後期から鎌倉時代前期の建物群と考えられる。

第2～6トレンチでは、弥生時代末期の溝や平安時代後期から鎌倉時代前期の柱穴、室町時代の耕作溝などを各々検出した。第1トレンチに比べて遺構密度が、やや低い傾向が指摘できる。

まとめ 今回の調査地は、太田遺跡のほぼ中央に位置しているが、北西部に位置する第1トレンチの遺構密度が高いことから、弥生時代末期の集落の中心は、当該地より北西方に広がる可能性が指摘できる。また、検出した池沼4および溝48は、調査地周辺の地形復原を行ううえで、基礎的な資料となる。一方、溝48の最下層からは、一括性の高い弥生時代末期の土器が一定量出土し



第1図 調査地位置図(1/25,000)



第2図 第1トレンチ平面図

ており、当該時期の土器編年の基準資料となる。

平安時代後期から鎌倉時代前期の掘立柱建物跡や井戸は、太田遺跡地内一帯に点在する小規模な集落の一部と考えられ、中世集落の動態を検証するうえで基礎的な資料を得ることができた。

今後は、既往の調査成果との时期的な関係を検討し、集落全域における土地利用の推移を整理しなければならない。

(小池 寛)

24. 芝山遺跡

所在地 城陽市富野上ノ芝3番地ほか
 調査期間 平成13年12月17日～平成14年2月27日
 調査面積 約1,600m²

はじめに 今回の調査は、京都府が計画する木津川右岸運動公園建設に関連する工事用道路の建設に伴う緊急調査である。当遺跡では過去において20数次にわたる調査が、城陽市教育委員会および当調査研究センターにより実施されてきた。そのなかで山城総合運動公園城陽線の建設に伴う調査では、後世の開墾で墳丘が削平され、周濠だけが残った小方墳や、飛鳥時代の竪穴式住居跡、奈良時代の掘立柱建物跡・蒸籠組の井戸などを検出している。

また、遺跡の周辺には、縄文時代後期の集落が確認された森山遺跡や梅の子塚古墳群などもみられ、遺跡が比較的密に分布する。

調査の概要 工事用道路建設予定地内で、買収の完了した部分を対象に幅4m、長さ50m程度のトレンチを地形を確認の上合計11か所に設定した。以下に各トレンチの概要を述べる。

1 トレンチでは、竪穴式住居跡(S H36・73)を2基、土坑(S K38・54)2基を確認した。時期は出土した土器からいずれも古墳時代後期と思われる。

2 トレンチでは、若干のピットおよび所属時期不明の木棺墓(S X23)を検出した。

3 トレンチでは、南北方向の溝4条(S D28・29、S D37・38)と、谷地形(S K36)を検出した。S X36の最終埋没段階の土層にT K217段階の須恵器・土師器が含まれる。

4 トレンチでは、トレンチ南東寄りで谷地形(S D31)を検出した。S D31の出土遺物はない。このS D31北東側と南西側でピットを検出したが、建物として復原できるものはない。ピットの時期はおおよそ奈良時代である。

5 トレンチでは、トレンチ南東寄りに顕著な遺構が集中する。布掘り建物跡は、梁間2間、桁行2間以上の東西棟建物である。梁間桁行1間は2.1m、桁行柱間寸法は2.8mを測る。ピットは直径0.6mを測り、深さは0.7mを測る。またこの周辺で竪穴式住居跡を5基検出した。住居跡は一辺が3m前後の小規模なものである。S H35は南西辺中央付近に竈と思われる焼土を検出した。

6 トレンチでは、トレンチ西側で竪穴式



調査地位置図(1/25,000)

住居跡、それより東側では 北西—南東方向の溝跡6条や土坑を検出した。溝の年代はおおよそ平安時代と思われる。

7トレンチでは、幅約3m、深さ約0.7mの溝跡(S D01)、トレンチ北西隅で溝跡(S D03)を検出した。S D01と03が同一のものとする、一辺が約20mの方墳に復原できる。埋土中から円筒埴輪片のほか、埋土中層から奈良時代の須恵器杯B・蓋、杯Aおよび土師器杯がまとまって出土した。そのほか、土坑、ピットを検出した。

8・9トレンチは、丘陵の南斜面および谷部分に設定したトレンチである。斜面部分に奈良時代の土器が包含されるごく薄い堆積層を確認した以外、遺構は見られなかった。

10・11トレンチでは、丘陵の稜上の平坦面から、土器片を伴う土坑1基を検出した。

まとめ 今回の試掘調査の結果、1・5・6トレンチで竪穴式住居跡の広がり確認できた。5トレンチではこのほか布掘りを施した掘立柱建物跡の存在が注目される。また、7トレンチで検出した溝跡は墳丘を削平された古墳の存在を示すものと思われ、北側に位置する梅の子塚古墳群との関連が考えられる。ただし今回の試掘は道路計画路線の北側の情報にすぎず、路線幅を示す東西方向のデータは皆無に近い。今後東西方向の試掘を実施することで、当遺跡の様相が一層明確になるだろう。

(柴 暁彦)

注 主な芝山遺跡の調査概報には以下のものがある。

近藤義行ほか「芝山遺跡発掘調査概報」(『城陽市埋蔵文化財調査報告書』第7集 城陽市教育委員会) 1975

小池寛「芝山遺跡発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第25冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1987

小泉裕司「芝山遺跡発掘調査概報」(『城陽市埋蔵文化財調査報告書』第28集 城陽市教育委員会) 1995

増田孝彦「芝山遺跡発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第89冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1999

25. ^{たきぎ}薪 遺 跡

所在地 京田辺市大字薪地内
 調査期間 平成14年1月9日～2月27日
 調査面積 約400m²

はじめに 薪遺跡は、南山城盆地の中央部、木津川左岸の丘陵裾部に位置し、木津川の支流であり甘南備山を源流とする手原川の扇状地上に立地する。遺跡は、およそ500m四方に及ぶ広範囲の遺跡であり、過去の調査から、古墳時代と平安～鎌倉時代を中心とする集落遺跡と考えられている。過去の調査例もわずかであり、遺跡の実体については未だ不明な状況にある。

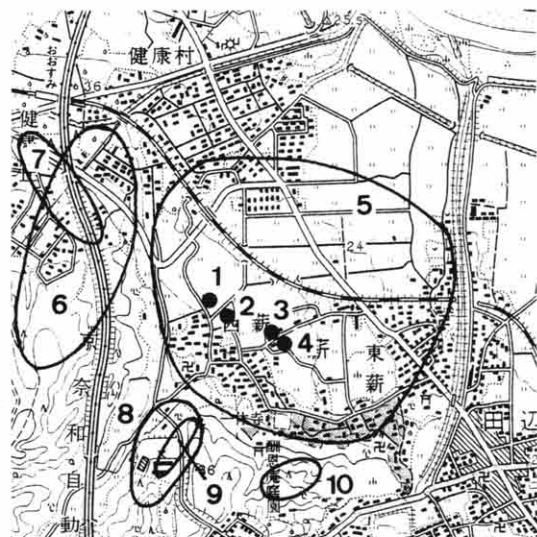
薪遺跡の周辺では、南西の丘陵部に存在する堀切古墳群・堀切横穴群の調査で石棺や武人埴輪など貴重な遺物が出土している。北西丘陵上では、郷土塚2号墳で鳥形埴輪・家形埴輪の出土がみられ、周辺は形象埴輪の豊富な地域といえる。また、郷土塚古墳群周辺には弥生時代の狼谷遺跡もみられる。

今回の発掘調査は、主要地方道八幡木津線道路整備促進事業に伴い、京都府土木建築部の依頼を受けて実施したものである。調査は、路線内における薪遺跡の範囲・遺構の遺存状況の把握を主目的とした試掘調査を実施した。調査で検出した遺構の多くは検出にとどめ、遺構内の調査は今後の本調査に託し、一部の遺構について部分的に断ち割りによる状況確認を行った。

調査の概要 調査対象地は西薪集落の北東縁辺部にあたり、住宅と田畑が混在する。今年度は、計4か所の田畑に対し、幅5mのトレンチを設定して調査を行った。調査トレンチは北側から順に第1～4の番号を付した。

第1トレンチでは、トレンチ西端部の地表下1.3mで地山とみられる安定した淡緑灰色砂層を検出した。この地山面は東方向に下るゆるやかな傾斜が認められた。地山上には0.2～0.3mの厚みをもつ暗灰色粘質砂が堆積し、縄文後期前半の土器破片(中津式・四ツ池式)を多数包含する。地山面では、1m前後の土坑4基のほか、小規模な柱穴を10基近く検出した。これらの遺構は、検出状況・出土遺物などから縄文時代後期前半に属すると考えられる。

第2トレンチでは、地表下約0.5mで旧河川跡と判断する砂礫層を検出した。トレンチ中央部以北では、砂礫層上に0.1～0.3mの暗茶灰色砂(礫混じり)の遺物包含層を認め、埴輪・須恵器・土師器・瓦器



第1図 調査地位置図(1/25,000)

- | | | |
|-------------|------------|---------|
| 1～4. 調査トレンチ | 5. 薪遺跡 | 6. 狼谷遺跡 |
| 7. 郷土塚古墳群 | 8. 堀切古墳群 | |
| 9. 堀切横穴群 | 10. 天理山古墳群 | |

など、古墳時代後期～鎌倉時代にかけての遺物が出土した。数量的には古墳時代後期の埴輪(川西編年Ⅴ期)と、奈良時代後期の須恵器が高い比率を占める。トレンチ北端付近から、幅約2m、深さ0.3～0.5mの円弧を描く溝を検出した。溝の埋土中には、小型の円筒埴輪・朝顔形埴輪・形象埴輪(馬形)の破片が多く含まれている。埴輪は磨滅も少なく、接合破片も多いことから、溝は古墳の周濠である可能性が高い。古墳墳丘部は後世の削平ですでに失われているが、直径16m前後の円墳が存在したとみられる。

第3トレンチは、耕作土床土直下から灰色系の粘質砂・粗砂が厚く堆積し、湧水も激しく、旧河川跡の様相を示す。トレンチ南端部で旧河川南岸の立ち上がりを検出したが、北岸はトレンチ内で確認できない。検出遺構として、トレンチ南端部から瓦器椀破片を含む鎌倉時代の土坑1基を検出した。床土層から中世以降の土器が出土したが、出土量はわずかである。

第4トレンチでは、地表下約0.6mで地山とみられる堅く締まった黄灰色砂質土を検出した。地山の上層には、縄文時代後期前半の土器を包含する、厚さ約0.1mの黒茶灰色砂質土が堆積している。地山面では、溝・土坑・配石遺構など30基近くの遺構を検出した。これらの遺構は、検出過程での遺物出土状況から、一部で奈良時代の遺構を含むが、大多数は縄文時代後期の遺構と予想される。

まとめ 第1・4トレンチから、縄文時代後期前半の土器とともに溝・土坑・柱穴を検出し、遺跡の年代が同時期まで遡ることが明らかになった。住居跡は未検出であるが、遺構群の状況から周辺部に住居跡が存在する可能性が高く、集落跡については扇状地内の微高地に点在するものと予想される。また、第2トレンチでの古墳周濠の検出によって、丘陵部から下った扇状地においても古墳が存在することが明らかになった。古墳は単独墳とは考えられず、さらに周辺部に幾つかの古墳が存在するとみられる。

奈良～平安・鎌倉時代については、遺物の出土状況から、第2・4トレンチ周辺に同時期の集落が存在するとみられる。特に第2トレンチは、奈良時代の須恵器が多く出土し、周辺に奈良時



第2図 第4トレンチ全景(北から)

代の遺構が存在する可能性が高い。

今回の調査は、わずか4か所の小規模トレンチ調査であったが、これまで知られていた薪遺跡の様相に、新たな知見を加える成果を得た。今後の本調査に期待が寄せられる。

(竹原一彦)

26. 赤ヶ^{あか}平^{ひら}遺跡第2次

所在地 相楽郡木津町木津赤ヶ平
 調査期間 平成13年10月15日～平成14年2月27日
 調査面積 約1,300m²

はじめに 今回の調査は、「関西文化学術研究都市」の整備事業に伴い、都市基盤整備公団の依頼を受けて実施したものである。今回は、昭和59年度調査(第1次)の結果を受けて、やや面的に調査を実施した部分(第1・2トレンチ)と、調査対象地内に細長い試掘トレンチを設けて調査を実施した部分(第3～9トレンチ)とがある。

調査の概要 第1・2トレンチでは、竪穴式住居跡2基、剥片石器廃棄土坑1基、鏡埋納坑1基などを検出した。

竪穴式住居跡S B02はやや楕円形を呈するが、長軸長6.2m以上、短軸長5.1m以上、最大の深さ15cmを測る。遺物としては、住居の埋土から弥生土器片や砥石、石鏃のほか、ガラス製勾玉の破片も出土した。住居跡の時期は不明であるが、形状が円形に近いことから弥生時代の可能性が高い。

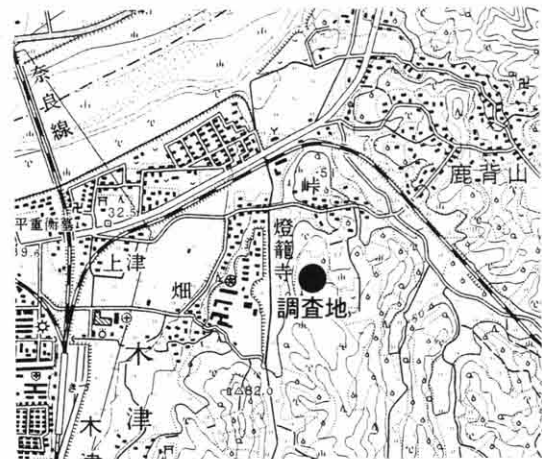
竪穴式住居跡S B15は、直径約6.2m、最大の深さ10cmを測るほぼ円形の住居跡である。住居の南西部で、約2m四方の範囲から石器製作の際に生じた剥片が多数出土した。遺物は、これらの剥片のほか、石鏃や弥生土器などが出土した。住居跡の時期は弥生時代中期と思われる。

剥片石器廃棄土坑S X16 竪穴式住居跡S B15の南で検出した隅丸長方形の土坑で、長さ2.95m、幅1.7m以上、最大の深さ18cmを測る。遺物としては、前期の弥生土器や多数の剥片が出土した。これらの大半は石器製作の際に生じた剥片で、ほかに石鏃数点が出土した。土坑の時期は弥生時代前期である。

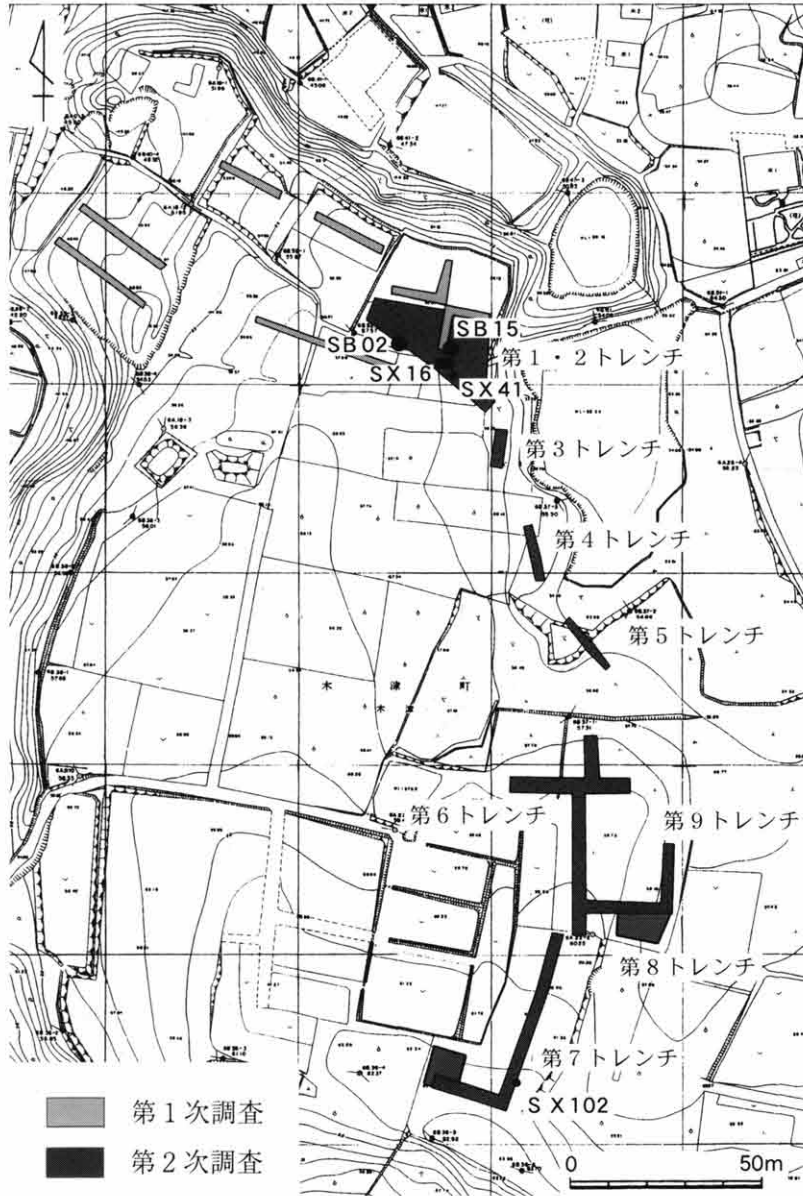
鏡埋納坑S X41は、円形の柱穴状を呈する小土坑である。直径25cm、深さ10cmを測る。土坑底にはほぼ接して菊花文鏡が鏡面を上にして出土した。鏡の横には鉄刀が立てられていた。鏡は室町時代頃のものと思われる。

第3～6トレンチは、1・2トレンチから南に順次設定した試掘トレンチであるが、調査の結果、顕著な遺構は検出されなかった。出土遺物として、第4トレンチで剥片1点、第6トレンチで須恵器の破片などが出土した。

第7トレンチの顕著な遺構としては、南端付近で遺物を伴う土坑2基を検出したにとどまる。こ



第1図 調査地位置図(1/25,000)



第2図 トレンチ配置図

のうち1基(SX102)からは古墳時代前期の土器が出土した。

第8・9トレンチでは、現地表下約0.9～1.1mのところ、近世ないし近代の柱穴または土坑と思われる遺構を検出した。ここでは、土層が水平に堆積しており、近世以降に整地を繰り返して土地を利用していたと考えられる。また、第9トレンチで石鏃1点が出土した。

まとめ 今回の調査成果についてまとめると以下のようになる。

①弥生時代の遺構・遺物を多数検出した。特に北端部では竪穴式住居跡を検出し、赤ヶ平遺跡が弥生時代の集落であったことが確認された。今回の調査で検出された前期の遺構は、この地域における弥生時代の集

落の形成が弥生時代前期に遡ることを表していると考えられる。

②古墳時代の土器がごくわずかであるが、調査地の北端と南端でそれぞれ出土しており、弥生時代同様、古墳時代の遺跡も赤ヶ平遺跡全体に広がっていた可能性がある。

③注目すべき遺物として、ガラス製勾玉の破片や中世の鏡(菊花文鏡)が出土した。これらの遺物と同時期の顕著な遺構を検出することはできなかったが、調査地周辺に関連する遺構の存在が予想され、今後とも注目される。

(筒井崇史)

長岡京跡調査だより・81

前回『たより』以降の長岡京連絡協議会は、平成14年2月27日・3月20日・4月24日に開催された。報告のあった京内の発掘調査は宮内3件、左京域4件、右京域7件であった。京域外の5件を併せると、合計19件となる。

調査地一覧表(2002年4月末現在)

番号	調査回数	地区名	調査地	調査機関	調査期間
1	宮内第410次	7ANEKI-4	向日市鶏冠井町北井戸30	(財)向日市埋文	1/8~1/31
2	宮内第411次	7ANFMK-17	向日市上植野町南開61-4	(財)向日市埋文	4/18~5/18
3	宮内第412次	7ANFMK-18	向日市上植野町南開40-4	(財)向日市埋文	4/18~5/10
4	左京第468次	7ANDSD-2	向日市森本町下町田23	(財)向日市埋文	1/8~2/28
5	左京第469次	7ANFKZ-5	向日市上植野町北小路2	(財)向日市埋文	1/31~2/4
6	左京第470次	7ANVNC	京都市南区久世殿城町600-1	(財)京都市埋文研	1/24~2/28
7	左京第471次	7ANDKD-2	向日市森本町上町田1-10	(財)向日市埋文	1/28~3/6
8	右京第729次	7ANFYS-1	向日市上植野町山ノ下4	(財)向日市埋文	1/21~3/15
9	右京第730次	7ANKNC-5	長岡京市天神二丁目13-1他	(財)長岡京市埋文	2/1~3/31
10	右京第731次	7ANMMK-7	長岡京市神足三丁目219	(財)長岡京市埋文	2/12~2/20
11	右京第732次	7ANISY-4	長岡京市今里二丁目101、102	(財)長岡京市埋文	2/4~2/15
12	右京第733次	7ANMKI-8	長岡京市東神足2丁目10-1	(財)長岡京市埋文	2/12~2/22
13	右京第734次	7ANMM-4	長岡京市天神二丁目323-6他	(財)長岡京市埋文	4/1~4/12
14	右京第722次	7ANUDC	京都市西京区大原野石見	(財)京都市埋文研	1/24~2/28
15	久々相遺跡第7次	7AKBYT-2	向日市寺戸町山縄手地内	(財)向日市埋文	2/12~3/1
16	中海道遺跡第58次・物集女城跡第7次	3NNANK-58	向日市物集女町森ノ上6他	(財)向日市埋文	2/13~3/22
17	中海道遺跡第59次	3NNANK-59	向日市物集女町中条22	(財)向日市埋文	2/26~3/26
18	山崎津跡第15次	7YYMS'YS	大山崎町字大山崎小字柳島	大山崎町教委	1/22~3/26
19	大山崎町第46次遺跡確認調査	7YYMSWD-3	大山崎町字大山崎早稲田	大山崎町教委	4/8~5/31

長岡京跡発掘調査抄報

左京域 第468次調査地は、北一条大路、十六町宅地内に推定される。調査の結果、大路の南側溝、建物跡などが検出された。遺物は長岡京期の土師器、須恵器、墨書土器「藍」(須恵器杯B蓋)などが出土した。この大路の位置は宮内大路の側溝より北へ約8mズレることが判明した。この問題に関しては、東西方向の振れ角(0°25'~30')、あるいは条坊の施工方法において宮域と京域とに異なった基点が存在することに起因するものとされた。また、十六町周辺の宅地の規

模などから推測すると30尺の余剰帯によるものと想定された。

第470次調査地は、北一条三坊三町、東院跡に推定される。調査の結果、築地・築地東溝(S D 50B)、柱穴などが検出され、東院正殿の占地の規模がほぼ明らかとなった。築地東溝は幅2m、深さ0.3mを測る。溝内からは長岡京期の土師器、須恵器、軒丸瓦、軒平瓦などが出土した。溝心の位置は、東院の正殿東西中軸から50.8m離れており、左京436次調査での西側通路(築地基底部)の距離50.2mとほぼ同じ位置にくることから東院に伴う遺構であると推定された。

この成果をもとに東院正殿域の占地は、北一条大路に接した北側で東西幅約100mを測り、その中軸線は東三坊坊間西小路になるものと想定された。なお、築地・築地東溝の造営時期は、延暦10(791)年か同11(792)年で、廃絶時期は平安京への遷都直後であるとされる。

右京域 第730次調査地は、長岡天神の八条ヶ池の西側に位置し西陣町遺跡に含まれる。調査の結果、平安時代後期から鎌倉時代に比定される南北方向の溝(幅3m、深さ1m)、焼土坑(茶毘跡)、柱穴などが検出された。遺物は瓦器、瓦、陶磁器など中世のものが多い。この溝の西側には、築地塀と宅地が想定されている。この遺構の性格については、後鳥羽上皇の開田院(寺院)が想起されている。

京域外 山崎津跡第15次調査は、調査面積約2,000㎡の試掘調査である。調査の結果、中世を下限とする流路と近世の耕作面2面が確認された。地表下4.9m(標高6.8m)以下は淀川の洪水堆積層である。この流路は「大山崎庄絵図」や昭和21年撮影の航空写真などからみて旧小泉川であることがわかった。江戸時代(元禄)に小泉川の付け替えにより周辺が急速に陸化し、先述の耕作面(溝)は17世紀と18世紀代に形成されたものと思われ、耕作溝の方位は旧小泉川の影響を強く受けていることが窺える。

(竹井治雄)

付記

4月の連絡協議会では、中山修一記念館(記念館のオープンは9月に予定)の内覧会を、長岡京市教育委員会の中尾氏の案内で実施された。記念館は故中山先生の自宅建物を一部改修し、駐車場などの周辺整備も終えている。現在、膨大な資料と1万冊を超える蔵書の整理中とのことで展示はこれから行われる。記念館には、先生の業績が写真パネル、身の回り品、コンピューターなどで窺える展示室と先述の蔵書を保管する書庫がある。これを一般公開して先生の業績、足跡を讃えるとともに、長岡京の研究に役立てていただくことも設立主旨のひとつであるとの説明があった。

財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧

(平成14年6月1日現在)

理事長

樋口 隆康
(京都大学名誉教授)

副理事長

川上 貢
(京都府文化財保護審議会会長職務代理・
京都大学名誉教授)

常務理事

中谷 雅治

理事

上田 正昭
(京都府文化財保護審議会会長・京都大学名誉
教授)

藤井 学
(奈良大学学長・京都府立大学名誉教授)

佐原 眞
(前国立歴史民俗博物館館長)

中尾 芳治
(帝塚山学院大学文学部教授)

井上 満郎
(京都産業大学文化学部教授)

都出比呂志
(大阪大学大学院文学研究科教授)

高橋 誠一
(関西大学文学部教授)

増田富士夫
(京都大学大学院理学研究科教授)

三品 廣実
(京都府府民労働部文化芸術室長)

太田 信之
(京都府教育庁指導部長)

杉原 和雄
(京都府教育庁指導部理事文化財保護課長
事務取扱)

監事

小石原範和
(京都府出納管理局長)

安西 信隆
(京都府監査委員事務局長)

事務局長

中谷 雅治

総務課

課 長 安田 正人
総務係長 杉江 昌乃
主 任 今村 正寿
専門調査員 橋本 清一

(府立山城郷土資料館へ派遣)

主 事 鍋田 幸世 鈴木 直人

調査

課 長

久保 哲正

第1課

課長補佐

水谷 壽克

企画係長

水谷 壽克(兼)

専門調査員

竹井 治雄

資料係長

辻本 和美

主任調査員

松井 忠春 田中 彰

調査

課 長

長谷川 達

第2課

総括調査員

小山 雅人

課長補佐

奥村清一郎

調査第1係長

石井 清司

主任調査員

引原 茂治 戸原 和人

専門調査員

田代 弘

調査員

石尾 政信

調査員

石崎 善久 藤井 整

調査第2係長

村田 和弘

主任調査員

伊野 近富

調査第2係長

竹原 一彦 小池 寛

専門調査員

森島 康雄

主査調査員

黒坪 一樹

調査員

伊賀 高弘

調査第3係長

中川 和哉 筒井 崇史

主任調査員

奥村清一郎(兼)

専門調査員

増田 孝彦 岩松 保

調査員

岡崎 研一

調査員

中村 周平 柴 暁彦

野島 永 高野 陽子

河野 一隆

センターの動向(02.02~04)

1. できごと

2. 1 太田遺跡(亀岡市)関係者説明会
椋ノ木遺跡第5次発掘調査終了(6.13~)
- 4 龍安寺庭園(京都市)発掘調査開始
- 5 人権職場研修(於:京都府乙訓総合庁舎)奥村清一郎課長補佐、竹原一彦・小池寛主任調査員参加
- 8 人権に関する職場研修(於:京都府乙訓総合庁舎)増田孝彦主任調査員、松尾史子調査員参加
新堂池古墳群(園部町)発掘調査終了(12.10~)
池上遺跡第11次調査(八木町)発掘調査終了(10.23~)
- 12 太田遺跡、発掘調査終了(11.8~)
- 14 教育関係法人職員合同研修会(於:西本願寺)中谷雅治常務理事・事務局長、福嶋利範事務局次長、小山雅人調査第1課長、平良泰久調査第2課長、辻本和美調査第3係長、杉江昌乃主任、岩松保主任調査員、竹井治雄専門調査員、今村正寿主事、森島康雄・河野一隆調査員参加
愛宕神社古墳(丹後町)発掘調査終了(10.23~)
- 15 佐原眞理理事、女谷横穴群(八幡市)整理作業視察
佐原眞理理事講義(於:当センター)
職員研修(於:当センター)講師:山田邦和花園大学助教授「天皇陵に

ついて」

- 全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロックOA委員会(於:大阪歴史博物館)小山雅人調査第1課長、森島康雄調査員出席
- 19 樋口隆康理事長、池上遺跡第12次(八木町)現地視察
- 19~26 埋蔵文化財発掘技術者専門研修「陶磁器調査課程」(於:独立行政法人奈良文化財研究所)松尾史子調査員参加
- 22 全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック会議(於:奈良市)中谷雅治常務理事・事務局長、安田正人総務課主幹出席
全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック主担者会議(於:和歌山市)小山雅人調査第1課長、辻本和美調査第3係長出席
池上遺跡第12次(八木町)現地説明会
- 25 赤ヶ平遺跡(木津町)関係者説明会
- 26 龍安寺庭園(京都市)発掘調査終了(2.4~)
- 27 長岡京連絡協議会(於:当センター)
池上遺跡第12次調査発掘調査終了(10.24~)
芝山遺跡(城陽市)発掘調査終了(12.17~)
薪遺跡(京田辺市)発掘調査終了(1.9~)

- 赤ヶ平遺跡、発掘調査終了(10.27～)
- 28 職員研修(於：当センター)講師：野々口(高野)陽子調査員「全国埋蔵文化財法人連絡協議会海外研修報告：中国」
3. 1 案察使遺跡(亀岡市)関係者説明会
- 5 人権問題特別研修(於：京都府職員研修所)水谷壽克調査第2課課長補佐出席
- 7 案察使遺跡、発掘調査終了(11.26～)
- 15 職員研修(於：当センター)講師：藤井整・福島孝行調査員「弥生時代墓制の成立」
- 20 長岡京連絡協議会(於：当センター)
- 26 第64回役員会・理事会(於：ルビノ京都堀川)樋口隆康理事長、川上貢副理事長、中谷雅治常務理事・事務局長、上田正昭、中尾芳治、井上満郎、都出比呂志、高橋誠一、三品廣実、太田信之、杉原和雄各理事出席
- 29 退職職員辞令交付
4. 1 昇任・異動職員辞令交付
- 10 女谷横穴群(八幡市)発掘調査開始
荒坂遺跡(八幡市)発掘調査開始
御毛通遺跡(京田辺市)発掘調査開始
- 15 イリ遺跡(丹後町)発掘調査開始
荒坂横穴群(八幡市)発掘調査開始
畑ノ前遺跡(精華町)発掘調査開始
- 24 長岡京連絡協議会(於：当センター、長岡京市立中山修一記念館)
2. 普及啓発事業
3. 2 第92回埋蔵文化財セミナー(於：京都社会福祉会館)『都城調査の最新成果』：森下衛京都府教育庁文化財保護課主任「近年の恭仁宮跡の発掘調査成果から」、國下多美樹向日市埋蔵文化財センター次長「長岡宮朝堂院・内裏の成果」、網伸也京都市埋蔵文化財研究所調査研究技師「平安京右京三条二坊十六町」
3. 人事異動
3. 31 福嶋利範事務局次長兼総務課長退職(京都府教育庁に復職)

受贈図書一覧(02.02~04)

釧路市埋蔵文化財調査センター

大楽毛1遺跡調査報告書Ⅱ

青森県埋蔵文化財調査センター

青森県埋蔵文化財調査報告書第314集 小奥戸(4)遺跡Ⅱ、同第315集 近野遺跡Ⅳ、同第316集 朝日山(2)遺跡Ⅲ、同第317集 蟹沢(2)遺跡・黒坂遺跡Ⅱ、同第318集 笹ノ沢(2)遺跡Ⅱ、同第319集 野辺地蟹田(10)遺跡・向田(30)・(31)遺跡、同第320集 野尻(1)遺跡Ⅳ、同第321集 安田(2)遺跡Ⅲ、研究紀要 第7号

北上市立埋蔵文化財センター

北上市立埋蔵文化財年報1999年度、北上市埋蔵文化財調査報告第45集 塚遺跡、同第46集 鳩岡崎上の台遺跡、同第48集 国見山廃寺跡

(財)いわき市教育文化事業団

いわき市埋蔵文化財調査報告第68冊 大谷遺跡、同第75冊 荒田目条里遺跡、同第79冊 千速A遺跡

(財)茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第182集 上野陣遺跡、同第183集 神田遺跡3、同第184集 長峰城跡、同第185集 大山I遺跡、同第186集 樋の沢久保遺跡、同第187集 稲岡遺跡、同第188集 宮後遺跡1、同第189集 館野遺跡、同第190集 熊の山遺跡、同第191集 島名前野東遺跡、同第191集 島名境松遺跡、同第191集 谷田部漆遺跡、同第192集 石畑遺跡、同第193集 十万原遺跡、同第194集 谷畑遺跡、同第195集 金田西・西坪B遺跡、同第196集 西平塚梨ノ木遺跡

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第278集 下阿内壺町・畑遺跡・下阿内前田遺跡、同第281集 波志江中野面遺跡(1)、同第286集 石墨遺跡、年報20

(財)千葉県文化財センター

年報No. 26、千葉県文化財センター調査報告書第395集 市原市永藤城跡、同第396集 夷隅町たかもりがだい城跡、同第397集 主要地方道成田松尾線XⅡ、同第398集 千葉東南部ニュータウン23、同第399集 主要地方道松戸野田線住宅地関連埋蔵文化財調査報告書、同第400集 船橋市新山東遺跡、同第401集 羽計清水西遺跡、同第402集 千葉東金道路(二期)埋蔵文化財調査報告書7、同第403集 同8、同第

404集 新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XⅣ、同第405集 同XⅤ、同第406集 同XⅥ、同第407集 習志野市津田沼二丁目遺跡、同第408集 市川市国府台遺跡第13地点、同第409集 東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書7、同第410集 同8、同第411集 同9、同第412集 君津市寺ノ代遺跡、同第413集 富津市鳥井戸遺跡、同第414集 木更津市四宝塚遺跡、同第415集 野田市南下夕村遺跡、同第416集 木更津市四房遺跡、研究紀要22、研究連絡誌 第61号

(財)千葉市文化財調査協会

年報11~13、土気南遺跡群Ⅵ、土気南遺跡群Ⅷ、千葉市下田遺跡、千葉市芳賀輪遺跡平成8年度調査報告書、千葉市猪鼻城跡、千葉市御林城跡、千葉市根崎遺跡K地点、千葉市戸張作遺跡Ⅰ、千葉市戸張作遺跡Ⅱ、千葉市坊屋敷遺跡、千葉市海老遺跡平成8年度調査報告書、千葉市生実城跡、千葉市遠坪遺跡、千葉市愛生遺跡、千葉市築地台貝塚、千葉市小満遺跡、千葉市榎作遺跡・種ヶ谷津遺跡・立堀城跡・高有遺跡・宮ノ後遺跡・谷当・上ノ台遺跡、生実城跡、千葉市うならず遺跡平成12年度調査、千葉市多部田貝塚、千葉市源町遺跡群

(財)山武郡市文化財センター

(財)山武郡市文化財センター発掘調査報告書第23集 新坂遺跡・東風吹山遺跡・蒲野遺跡・西後藤遺跡、同第73集 伊能忠敬出生地遺跡、同第76集 大山遺跡605-3地点、同第78集 東遠芝遺跡、研究ノート山武 第3号

(財)総南文化財センター

(財)総南文化財センター調査報告第43集 針ヶ谷遺跡

(財)市原市文化財センター

年報 平成10年度、(財)市原市文化財センター調査報告書第74集 市原市新井花和田遺跡、同第75集 市原市喜多仲台遺跡、同第76集 市原市釜神遺跡、同第77集 市原市小鳥向遺跡Ⅱ、同第81集 市原市畑木小谷遺跡Ⅱ、上総国分寺台遺跡調査報告Ⅷ

(財)東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター

東京都埋蔵文化財センター調査報告第103集 多摩ニュータウン遺跡No. 960遺跡、同第104集 多摩ニュータウン遺跡No. 939遺跡Ⅲ-(3)、同第

105集 溜淵遺跡、同第106集 西龍ヶ崎遺跡、同第107集 板橋山之上遺跡、同第108集 多摩ニュータウン遺跡、同第109集 市谷本村町遺跡、同第115集 市谷本村町遺跡

(財)かながわ考古学財団
 かながわ考古学財団調査報告39 吉岡遺跡群Ⅵ、同47 吉岡遺跡群Ⅶ、同49 吉岡遺跡群Ⅸ、同127 稲荷木遺跡、同130 佐原城跡遺跡、同132 正覚寺やぐら群、同133 川尻中村遺跡、同134 原口遺跡Ⅲ、同135 原口遺跡Ⅳ

(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター
 年報11、港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告30 上台の山遺跡

(財)長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター
 長野県埋蔵文化財センター調査報告書57 緊急地方道路整備A(一)上室賀坂城(停)線埋蔵文化財発掘調査報告書、同58 馬捨場遺跡

(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
 新潟県埋蔵文化財調査報告書第108集 小重遺跡、川辺の縄文集落

(財)石川県埋蔵文化財センター
 田鶴浜町三引遺跡Ⅰ、田鶴浜町三引E遺跡・三引F遺跡、志賀町甘田タイ遺跡、加賀市松山C遺跡、三社町遺跡、松任市乾遺跡発掘調査報告書、金沢市藤江B遺跡Ⅰ～Ⅲ、金沢市藤江C遺跡Ⅰ、七尾市赤浦やまあと遺跡、小松市ブッシュウジヤマ古墳群、発見！古代のお触れ書き、年報2、石川県埋蔵文化財情報第4～6号

金沢市埋蔵文化財センター
 金沢市文化財紀要179 大友西遺跡Ⅰ、同180 大友西遺跡Ⅱ、同181 千田遺跡、同182 市内遺跡発掘調査報告書Ⅱ、同183 松村高見遺跡・松村A遺跡、同184 神谷内A遺跡、同185 彦三町遺跡、同186 近岡遺跡Ⅱ、同187 平成13年度金沢市埋蔵文化財調査年報

(財)岐阜県文化財保護センター
 岐阜県文化財保護センター調査報告書第69集 佐口遺跡、同第70集 針田遺跡・東坪之内遺跡・田中浦遺跡、同第72集 富田清友遺跡、同第73集 上ヶ平遺跡Ⅱ、同第75集 保別戸古墳群

(財)愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第90集 志賀公園遺跡、同第91集 川原遺跡、同第92集 八王子遺跡、同第93集 刈安賀遺跡、同第94集 岡島遺跡Ⅲ・大毛池田遺跡Ⅱ、同第95集 牛牧遺跡、同第96集 天神前遺跡、同第97集 大脇城遺跡Ⅱ、同第106集 西川原古墳

三重県埋蔵文化財センター
 三重県埋蔵文化財調査報告123-7 堀町遺跡、同146-1-2 櫛田地内遺跡群発掘調査報告、同146-4 高ノ御前遺跡発掘調査報告、同154 前田町屋遺跡発掘調査報告、同186-3 上惣作遺跡発掘調査報告、同220 羽根中島遺跡発掘調査報告、近畿自動車道尾鷲勢和線(紀勢～勢和間)埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ、一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ、平成12年度三重県埋蔵文化財年報、宮川用水第二期区埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ

松阪市文化財センター
 宝塚古墳の源流を求めて

(財)滋賀県文化財保護協会
 紀要 第15号

(財)栗東市文化体育振興事業団
 栗東はっくつ20、栗東町埋蔵文化財発掘調査2000年度年報、1985年度栗東町埋蔵文化財発掘調査資料集

(財)大阪府文化財調査研究センター
 池島・福万寺遺跡発掘調査概要ⅩⅩⅦ、(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書第67集 駒ヶ谷遺跡Ⅱ、同第71集 津田城遺跡、発掘速報展大阪 大河内展、年報 平成12年度、大阪文化財研究 第21号、大阪埋蔵文化財研究会(第44回)資料

(財)八尾市文化財調査研究会
 (財)八尾市文化財調査研究会報告68 久宝寺遺跡第22次発掘調査報告書、同69 久宝寺遺跡第24次発掘調査報告書

(財)桜井市文化財協会桜井市立埋蔵文化財センター
 1996年度発掘調査報告書1、1998年度発掘調査報告書3、1999年度発掘調査報告書4、2000年度発掘調査報告書4

(財)和歌山県文化財センター
 近畿ブロック埋文情報Vol.26(CD-ROM)

鳥取県埋蔵文化財センター
 青谷上寺地遺跡5

倉敷埋蔵文化財センター
 年報8

(財)広島県埋蔵文化財調査センター
 広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第197集 熊ヶ迫第4・7・8号窯跡・大蔵第2号窯跡・高岩遺跡、同第198集 寺尾遺跡、同第199集 植谷遺跡・根野見遺跡・植谷古墳発掘調査報告書、同第200集 上朝枝遺跡発掘調査報告書、同第201集 末近城跡

山口県埋蔵文化財センター
 陶墳第14号

(財)徳島県埋蔵文化財センター

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第26集
石井遺跡、同第26集 鮎喰遺跡、同第27集 田
上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、同第28集 円通寺遺跡、同
第29集 八幡遺跡・井内遺跡・坊遺跡・須賀遺
跡・末遺跡、同第35集 貞光前田遺跡、同第36
集 南前川町1丁目遺跡、同第37集 薬師遺
跡・坊僧遺跡、同第41集 下突出遺跡・滝ノ宮
遺跡・佐城遺跡Ⅱ・鶴射遺跡・原遺跡Ⅱ、同第
42集 花園遺跡試掘調査総括、同第43集 古町
遺跡、年報Vol.12

(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター

埋蔵文化財発掘調査報告書第93集 水戸森遺
跡・七反山遺跡・今岡城跡

(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

松山市埋蔵文化財調査年報13、松山市文化財調
査報告書第85集 伊台惣部遺跡、同第86集 桑
原地区の遺跡Ⅳ

福岡市埋蔵文化財センター

年報 第20号

宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第50
集 南学原第1遺跡・南学原第2遺跡、同第51
集 内城跡、同第52集 白ヶ野第2・第3遺跡、
同第53集 蔵座村遺跡、同第54集 柿迫遺跡・
龍泉寺遺跡、同第56集 下屋敷遺跡、同第58集
上ノ原遺跡、同第59集 迫内遺跡、同第60集
本城跡、同第62集 白ヶ野第2・3遺跡・上の
原第1遺跡、同第63集 母智丘谷遺跡・畑田遺
跡・嫁坂遺跡、同第64集 平成13年度東九州自
動車道(都農～西都間)関係埋蔵文化財発掘調査
概要報告書Ⅱ

深川市教育委員会

深川市文化財報告16 北広里3遺跡Ⅲ

上ノ国町教育委員会

史跡上之國勝山館跡X XⅡ、町内遺跡発掘調査
事業報告書Ⅳ

森田村教育委員会

森田村緊急発掘調査報告書8 八重菊(1)遺跡Ⅱ

岩手県教育委員会

2000年度版岩手県遺跡情報検索システム(盛岡
地方振興局北部)、同(盛岡地方振興局南部)、
同(宮古地方振興局)、同(二戸・久慈地方振興
局)、同(遠野・釜石・大船地方振興局)、同(水
沢・一関・千厩地方振興局)、同(花巻・北上地
方振興局)(CD-ROM)

郡山市教育委員会

西前坂遺跡、清水台遺跡、蒲倉古墳群、小泉山

田A遺跡第4次、守山城跡、荒井猫田遺跡
(Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区)、郡山市埋蔵文化財分布調査報
告8、埋もれていた中世のまち

藤岡市教育委員会

滝前C遺跡・稲荷屋敷遺跡

高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第171集 高崎市内遺
跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書15、同第172
集 倉賀野条里Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡、同第
173集 矢中村北D・矢中下村北・矢中淵ノ内
遺跡、同第174集 下之城村前Ⅲ・倉賀野上新
堀Ⅰ遺跡、同第176集 旭町Ⅲ遺跡

前橋市教育委員会

大屋敷遺跡、前田Ⅴ遺跡、前田Ⅵ遺跡、五代江
戸屋敷遺跡、田口八幡Ⅰ遺跡、田口八幡Ⅱ遺跡、
徳丸高堰Ⅳ遺跡、西田Ⅳ遺跡、亀里銭面遺跡、
亀里銭面Ⅱ遺跡、総社植野北開土遺跡、山王若
宮Ⅲ遺跡

さいたま市教育委員会

さいたま市内遺跡発掘調査報告書第1集 中原
後遺跡・西新井大山遺跡・巽遺跡

富士見市教育委員会

富士見市の絵馬、上沢薬師堂の百観音、富士見
市文化財報告第53集 富士見市内遺跡Ⅸ、同第
54集 富士見市内遺跡Ⅹ

千葉市教育委員会

埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書 平成12年度

志木市教育委員会

志木市の文化財第23集 志木市遺跡群12

市原市教育委員会

市原市内遺跡発掘調査報告第15冊 奈良大仏台
遺跡・南岩崎遺跡・八幡陣屋跡・柏原遺跡群、
鶴窪古墳、坊作遺跡

富津市教育委員会

木村遺跡・植ノ台遺跡第3次調査・富士見台遺
跡第7次調査・内裏塚古墳

東金市教育委員会

山田水呑遺跡・赤砂遺跡

日野市教育委員会

日野市埋蔵文化財発掘調査報告69 七ツ塚遺跡
9、同70 日野市埋蔵文化財発掘調査輯報XⅡ、
同71 七ツ塚遺跡10、同72 七ツ塚遺跡11、同
72 日野駅北駐輪場建設に伴う埋蔵文化財発掘
調査報告書、同73 上田排水区(公社13-1)工事
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、落川遺跡

武蔵野市教育委員会

吉祥寺南町1丁目遺跡O地点

神奈川県教育委員会

神奈川県埋蔵文化財調査報告44

若草町教育委員会

若草町埋蔵文化財報告書第3集 向第1遺跡

飯田市教育委員会

宮垣外遺跡・高屋遺跡、溝口の塚古墳、飯田城下町遺跡、井戸下遺跡、大門原遺跡Ⅱ、開善寺境内遺跡、黒田垣外・ミカド・見城垣外遺跡、高松原遺跡、妙前遺跡、恒川遺跡群他市内遺跡

佐久市教育委員会

佐久市文化財年報9、佐久市埋蔵文化財調査報告書第84集 榛名平遺跡、同第85集 柳堂遺跡、同第86集 市内遺跡発掘調査報告書1999、同第87集 宮添遺跡、同第88集 上芝宮Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、下曾根Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ、同第89集 川原端遺跡、同第90集 梨の木遺跡Ⅲ、同第91集 西一本柳遺跡ⅤⅥ・中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ・松ノ木遺跡ⅠⅡ、同第92集 辻の前遺跡Ⅱ・中仲田遺跡Ⅱ、同第93集 入高山遺跡

伊那市教育委員会

伊那市内の民俗芸能(無形文化財)の記録第7集、石塚遺跡、城楽遺跡、まこもが池遺跡

高岡市教育委員会

高岡市埋蔵文化財調査概報第45冊 市内遺跡調査概報Ⅹ、同第46冊 戸出古戸出遺跡調査概報、同第47冊 市内遺跡調査概報ⅩⅠ、同第48冊 石塚江之戸遺跡調査概報、高岡市埋蔵文化財調査報告第4冊 須田藤の木遺跡調査報告、同第5冊 間尽遺跡調査報告、同第6冊 頭川城ヶ平横穴群調査報告Ⅲ

大山町教育委員会

大山町埋蔵文化財調査報告第10集 学校法人富山国際学園富山国際大学地域学部増設建設工事に係わる埋蔵文化財発掘調査・富山県大山町東黒牧上野遺跡G地区発掘調査概要

小松市教育委員会

串町遺跡、島遺跡、額見町遺跡、こまつ二万年の歩み

小浜市教育委員会

若狭小浜城跡Ⅱ

美浜町教育委員会

興道寺古墳群

大垣市教育委員会

大垣市文化財調査報告書第11集 曾根城跡、同第39集 大垣市埋蔵文化財調査概要平成12年度、昼飯大塚古墳の登場とその背景を探る

池田町教育委員会

願成寺西墳之越古墳C・D・H～J地点確認調査報告書

袋井市教育委員会

掛之上遺跡Ⅶ

三島市教育委員会

三島市文化財年報 第13号、三島市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ、押切遺跡発掘調査報告書、初音ヶ原B遺跡第4地点、史跡 山中城跡

菊川町教育委員会

菊川町埋蔵文化財報告書第66集 栗林遺跡2001

稲沢市教育委員会

稲沢市文化財調査報告ⅩⅧ 稲沢市内遺跡発掘調査報告書、下津陸田地区埋蔵文化財発掘調査報告書

上野市教育委員会

上野市文化財調査報告70 上野城跡(4次)発掘調査報告、上野市埋蔵文化財年報8

三雲町教育委員会

三雲町埋蔵文化財調査報告2 松本権現前遺跡発掘調査報告、同3 松本権現前遺跡第2次発掘調査報告

長浜市教育委員会

長浜市埋蔵文化財調査資料第27集 八幡東遺跡、同第30集 鴨田遺跡発掘調査報告書第12次調査、同第31集 大辰巳遺跡発掘調査報告書第7次調査、同第32集 矢正寺遺跡、同第33集 大戌亥遺跡、同第35集 宮司東遺跡、同第36集 宮司東遺跡発掘調査報告書2、同第37集 平方遺跡、同第38集 松ノ木塚古墳・四ッ塚古墳・福満寺遺跡・平方遺跡、平成11年度長浜市文化財保護年報

中主町教育委員会

中主町文化財調査報告書第61集 内湖を掘る、同第63集 平成12年度中主町内遺跡発掘調査年報、中主町埋蔵文化財調査の手引き

愛知川町教育委員会

愛知川町埋蔵文化財発掘調査報告書第6集 第3次なまず遺跡発掘調査報告書、同第8集 畑田城遺跡・市村城遺跡・沓掛遺跡

蒲生町教育委員会

蒲生町文化財資料集18 ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅶ、同19 アリヲラジ遺跡発掘調査報告書、同21 大塚城遺跡発掘調査報告書、同22 ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅷ、同23 町内遺跡発掘調査報告書Ⅵ、同24 ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅸ

近江町教育委員会

近江町文化財調査報告書第20集 息長古墳群1、同第22集 碓遺跡第4次発掘調査

大阪府教育委員会

年報4、大阪府埋蔵文化財調査報告1996-6 安威遺跡、同2000-2 寛弘寺1号墳、同2000-3 池上曾根遺跡Ⅲ、同2000-4 野々上西遺跡、同

2000-5 陶邑・谷山池12号窯、同2000-6 七ノ坪遺跡、同2000-7 金岡西遺跡、同2000-8 宮野遺跡、同2000-9 唐櫃山古墳、高向遺跡発掘調査概要Ⅱ、田能遺跡群発掘調査概要Ⅱ、陶器南遺跡発掘調査概要Ⅷ、木の本遺跡発掘調査概要Ⅴ、六尾遺跡・六尾南遺跡・馬場笹カ遺跡・摩湯北遺跡

東大阪市教育委員会

東大阪市埋蔵文化財発掘調査概報平成11年度、同平成13年度、東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告 平成11年度、鬼虎川遺跡第44次発掘調査報告、瓜生堂遺跡第46次発掘調査中間報告書、塚塚遺跡第27次・縄手遺跡第13次発掘調査概要、

阪南市教育委員会

阪南市埋蔵文化財報告 X X VII 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 X VI

豊中市教育委員会

豊中市文化財調査報告書第51集 豊中市埋蔵文化財発掘調査概要平成13年度

泉南市教育委員会

泉南市文化財調査報告書第34集 泉南市遺跡群発掘調査報告書、同第35集 上代石塚遺跡発掘調査報告書

羽曳野市教育委員会

復原！旧石器人のアトリエ、羽曳野市埋蔵文化財調査報告書44 翠鳥園遺跡発掘調査報告書

泉佐野市教育委員会

泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要平成12年度、泉佐野市埋蔵文化財発掘調査報告61 若宮・上町東遺跡

寝屋川市教育委員会

寝屋川市文化財資料13 神田東後遺跡、同25 楠遺跡Ⅱ、よみがえる白鳳の伽藍、青銅器の生産と弥生社会、太秦高塚古墳とその時代、寝屋川市の指定文化財 第2集

高槻市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センター

高槻市文化財調査概要 X X VIII 嶋上遺跡群26、高槻市文化財年報 平成12年度

岸和田市教育委員会

第14回濱田青陵賞授賞式、岸和田市文化財調査概要28 平成13年度発掘調査概要

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

兵庫県文化財調査報告第184冊 白沢3・5号窯、同第186冊 久留美・跡部窯跡群、同第191冊 向山古墳群・市条寺古墳群・一乗塚経塚・矢別遺跡、同第209冊 亀田遺跡(第2分冊)、同第217冊 志方窯跡群Ⅱ、同第218冊 長坂遺跡、同第219冊 貴船遺跡、同第220冊 二郎宮

ノ前遺跡発掘調査報告書、同第222冊 奥新田東古墳群、三釈迦山北麓の遺跡

川西市教育委員会

平成12年度川西市発掘調査概要報告

赤穂市教育委員会

赤穂市文化財調査報告書48 東有年・沖田遺跡の風景、同52 宅地開発事業に伴う発掘調査、同53 赤穂城跡二の丸庭園 錦帯池

姫路市教育委員会

TSUBOHORI 平成12年度

奈良県教育委員会

史跡頭塔復原整備報告

榛原町教育委員会

榛原町文化財調査概要20 榛原町内遺跡発掘調査概要報告書1997年度、同22 榛原町内遺跡発掘調査概要報告書1999年度、同23 丹切遺跡第6・9次発掘調査概要報告書

和歌山市教育委員会

和歌山市内遺跡発掘調査概報平成11年度、史跡和歌山城石垣保存修理報告書、和歌山市文化体育振興事業団調査報告書第25集 史跡和歌山城跡第22次発掘調査概報、同第26集 鳴神VI遺跡第5次発掘調査概報、和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報6

北条町教育委員会

北条町埋蔵文化財報告書31 町内遺跡発掘調査報告書第11集

江津市教育委員会

平成3年度埋蔵文化財調査報告書、宮倉遺跡、埋蔵遺跡

浜田市教育委員会

国府地区 I

倉吉市教育委員会

倉吉市文化財調査報告書第106集 法華寺畑遺跡環境整備報告書、同第107集 史跡大御堂廃寺跡発掘調査報告書、同第108集 倉吉市内遺跡分布調査報告書11、同第109集 観音堂1号墳発掘調査報告書、同第110集 沢ベリ遺跡第3次発掘調査報告書、同第111集 船沖遺跡発掘調査報告書、同第112集 大平ラ遺跡・八幡山遺跡発掘調査報告書

大原町教育委員会

大原町埋蔵文化財発掘調査報告2 今岡廃寺

香川県教育委員会

埋蔵文化財試掘調査報告 X IV 香川県内遺跡発掘調査、香川県中世城館跡詳細分布調査概報平成12年度

福岡市教育委員会

福岡市埋蔵文化財調査報告書第660集 梅林遺

- 跡第2次調査、同第661集 羽根戸南古墳群、同第662集 福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査報告10、同第663集 比恵29、同第664集 箱崎10、同第665集 吉塚7、同第666集 博多75、同第667集 博多76、同第668集 博多77、同第669集 博多78、同第670集 博多79、同第671集 比恵30、同第672集 那珂27、同第673集 那珂28、同第674集 那珂29、同第675集 吉武遺跡群XⅢ、同第676集 高畑遺跡17次、同第677集 雀居遺跡6、同第678集 井尻遺跡群9、同第679集 中南部(6)、同第680集 福岡市板付周辺遺跡調査報告書第22集、同第681集 片江B遺跡、同第682集 樋井川A遺跡、同第683集 西新田遺跡7、同第684集 有田・小田部第36集、同第685集 入部XⅠ、同第686集 松木田遺跡群2、同第687集 中山遺跡、同第688集 原遺跡10、同第689集 神松寺遺跡2・拾六町平田遺跡3・大林遺跡1、同第690集 卯内尺古墳、同第691集 野方久保遺跡、同第692集 周船寺遺跡群4、同第693集 九州大学統合移転用地内埋蔵文化財発掘調査概報1、同第694集 元寇防塁(生の松原地区)復原・修理報告書、同第695集 鴻臚館跡11、福岡市埋蔵文化財年報Vol.14
- 甘木市教育委員会**
甘木市文化財調査報告書第51集 小田小塚本遺跡、同第52集 甘木小池遺跡、同第53集 平塚川添遺跡Ⅰ、同第54集 平塚川添遺跡
- 宗像市教育委員会**
宗像市文化財調査報告書第49集 富地原岩野A、同第50集 三郎丸堂ノ上C、同第51集 東郷登り立、むなかたの文化財—平成10・11年度文化財調査概要
- 太宰府市教育委員会**
太宰府市の文化財第51集 三条遺跡、同第52集 大宰府条坊跡XⅥ、同第53集 大宰府条坊跡XⅦ、同第54集 原遺跡、同第55集 宝満山遺跡11・21次調査、同第56集 太宰府・佐野地区遺跡群XⅠ、同第57集 大宰府条坊跡XⅧ、同第58集 太宰府・佐野地区遺跡群XⅡ
- 小郡市教育委員会**
小郡市文化財調査報告書第148集 寺福童遺跡2、同第149集 干潟猿山遺跡、同第150集 横隈仕解田遺跡、同第151集 三沢蓮ヶ浦遺跡2、同第153集 横隈十三塚遺跡2、同第154集 干潟遺跡6、同第155集 横隈上内畑遺跡3、同第156集 力武内畑遺跡4、同第157集 三沢蓮ヶ浦遺跡4、同第158集 三沢寺小路遺跡2、同第159集 小郡若山遺跡6、同第160集 大保西小路遺跡2
- 遠賀町教育委員会**
遠賀町文化財調査報告書第14集 先ノ野遺跡・慶ノ浦遺跡
- 志免町教育委員会**
志免町文化財調査報告書第13集 松ヶ下遺跡
- 三日月町教育委員会**
三日月町文化財調査報告書第11集 社遺跡、同第12集 仁俣遺跡
- 北野町教育委員会**
北野町文化財調査報告書第14集 古賀ノ上遺跡2
- 筑穂町教育委員会**
筑穂町文化財調査報告書第7集 上穂波地区遺跡群
- 安岐町教育委員会**
安岐町文化財調査報告書第9集 塩屋条里遺跡
- 大野町教育委員会**
郡山南遺跡
- 久住町教育委員会**
久住町文化財調査報告書第10集 上城遺跡
- 都城市教育委員会**
都城市文化財調査報告書第55集 馬渡遺跡(第2次調査)・坂元A遺跡
- えびの市教育委員会**
えびの市埋蔵文化財調査報告書第32集 長江浦地区遺跡群、同第33集 東川北地区遺跡群、同第34集 小岡丸地区遺跡群、同第35集 後平第2遺跡
- 三股町教育委員会**
三股町文化財調査報告書第4集 三股町内遺跡Ⅱ
- 田野町教育委員会**
田野町文化財調査報告書第43集 ズクノ山第2遺跡F地区、同第44集 本野原遺跡
- 平賀町郷土資料館**
平賀町埋蔵文化財報告書第29集 太師森遺跡発掘調査報告書
- 陸前高田市立博物館**
紀要 第5号、同第6号
- 東北歴史博物館**
東北発掘ものがたり
- (社)日本金属学会附属金属博物館**
紀要 第35号
- 秋田県立博物館**
機と布
- 上高津貝塚ふるさと歴史の広場**
年報 第7号、常陸戦国記
- 土浦市立博物館**
紀要 第12号

栃木県立なす風土記の丘資料館

年報 第9号

国立歴史民俗博物館

国立歴史民俗博物館研究報告第88集、同第92集、
同第93集、同第97集

千葉県立房総風土記の丘

槍の身振り、年報23

(財)新宿区生涯学習財団新宿歴史博物館

平成13年度新宿区遺跡調査研究発表会 発表要
旨集、市谷薬王寺町遺跡Ⅲ、百人町三丁目遺跡
Ⅴ、上落合二丁目遺跡Ⅱ、新宿一丁目遺跡Ⅰ、
南伊賀町遺跡、北新宿二丁目遺跡Ⅰ、落合遺跡Ⅲ

大田区立郷土博物館

木綿—染められた遊び心—

(財)府中文化振興財団府中市郷土の森博物館

年報 第15号、紀要 第15号、古代の武蔵国府

調布市郷土博物館

埋蔵文化財年報平成9～12年度、調布市埋蔵文
化財調査報告50 下石原遺跡、同51 中耕地遺
跡、同52 下布田遺跡、同53 下石原遺跡、同
54 小島町遺跡、同55 深大寺城山遺跡、同56
飛田給遺跡

出光美術館

館報 第117号、研究紀要 第7号

長野県立歴史館

研究紀要 第8号、阿久遺跡と縄文人の世界

松本市立考古博物館

松本市文化財調査報告No.150 川西開田遺跡
Ⅴ・三間沢川左岸遺跡Ⅲ、同No.151 百瀬遺跡
Ⅳ、同No.152 平田北遺跡、同No.153 岡の宮
遺跡Ⅰ、同No.154 伊勢町23・24・25次試掘調
査報告書

茅野市尖石縄文考古館

茅野市尖石縄文考古館リニューアルの記録

氷見市立博物館

コシの軍団

石川県立歴史博物館

紀要 第14号、年報 第8号、戦い・くらし・
女たち

福井県立博物館

紀要 第8号

三方町縄文博物館

年報 第1号、土器の径・参、同・四、三方町
文化財調査報告第15集 保谷墳墓群・矢竹古墳
群

常滑市民俗資料館

研究紀要X第10号

土岐市美濃陶磁歴史館

美濃桃山陶

静岡市立登呂博物館

研究紀要2、棚田のルーツ

一宮市博物館

一宮市埋蔵文化財報告3 西大門遺跡・飯守神
遺跡・五輪ヶ淵遺跡発掘調査報告書

斎宮歴史博物館

「観る」物語

市立長浜城歴史博物館

秀吉の城と城下町

大津市歴史博物館

研究紀要8

大阪府立弥生文化博物館

青いガラスの燦き

岸和田市立郷土資料館

短冊優品展Ⅱ—俳諧—

兵庫県立歴史博物館

喜田文庫の書画、兵庫の陶磁器

明石市立文化博物館

年報 平成10年度、同平成11年度

(財)辰馬考古資料館

展観の葉26、同27、考古学研究紀要4

香芝市二上山博物館

二上山—ハイキング・ガイド、ふたかみ10、大
来皇女と大津皇子、香芝市埋蔵文化財発掘調査
概報13、同14

橋本市郷土資料館

館報 第16号、谷内川をさかのぼる

広島県立歴史博物館

潮見浩文庫目録Ⅰ、中世民衆生活と文字、江戸
時代芸備の科学と自然

広島県立歴史民俗資料館

年報 第21号、研究紀要 第3集、広島の酒文化

高松市歴史資料館

高松市歴史資料館収蔵資料目録、怪童中西太展、
高松市の111年

九州歴史資料館

年報平成12年度、九州歴史資料館研究論集26

伊都歴史資料館

前原市文化財報告書第71集 神在横島遺跡、同
第72集 飯原門口遺跡、同第73集 萩浦天神社
裏古墳、同第74集 蔵持遺跡、同第75集 高祖
遺跡群Ⅲ、同第76集 高田小生水遺跡、同第77
集 三坂七尾遺跡

佐賀県立九州陶磁文化館

年報・資料目録 平成12年度

大分県立歴史博物館

大分県立歴史博物館調査報告書第6集 六郷山
寺院遺構確認調査報告書X

天瀬町文化財調査資料館

- 天瀬町埋蔵文化財発掘調査報告書第5集 塚田の遺跡
- 東北学院大学学術研究会
東北学院大学学術論集 第35号
- 筑波大学歴史・人類学系
歴史人類 第30号、先史学・考古学研究 第13号
- 千葉大学文学部考古学研究室
こうもり穴洞穴第1次発掘調査概報
- 國學院大學文学部考古学研究室
國學院大學文学部考古学実習報告第34集 物見処遺跡1999、同第35集 物見処遺跡2000、同第36集 物見処遺跡2001
- 立教大学学校・社会教育講座学芸員課程
Mouseion47
- 東海大学史学会
東海史學 第36号
- 愛知学院大学文学会
文学部紀要 第31号
- 愛知大学文学部史学科
愛大史学 第11号
- 名古屋大学年代測定総合研究センター
名古屋大学加速器質量分析計業績報告書(XⅢ)
- 南山大学人類学博物館
人類学紀要 第20号
- 滋賀県立大学人間文化学部
人間文化11号
- 滋賀大学教育学部考古学研究室
滋賀県史学会誌 第13号
- 大阪大学大学院文学研究科
待兼山論叢 第35号
- 関西学院大学文学部史学科
関西学院史学 第29号
- 奈良女子大学
奈良女子大学文学部研究報告1 白米山西古墳群発掘調査報告書、同2 金屋上司古墳発掘調査報告書
- 奈良大学図書館
奈良大学紀要 第30号
- 天理大学文学部歴史文化学科考古学専攻
古事 第6冊、墳丘のない墓の探査研究
- 島根大学法文学部考古学研究室
島根大学考古学研究室調査報告第3冊 松江市手間古墳発掘調査報告
- 広島大学文学部帝釈峡遺跡群発掘調査室
帝釈峡遺跡群発掘調査室年報XⅥ
- 徳島文理大学文学部文化財学科
塩飽諸島
- 熊本大学文学部考古学研究室
考古学研究室報告第37集 大久保貝塚
- 慶尚大學校博物館
慶尚大學校博物館研究叢書第24輯 晋州大坪里玉房3地区先史遺蹟
- 釜山大學校博物館
釜山大學校博物館研究叢書第24輯 梁山新平遺蹟、同第25輯 山清放牧里白磁窯址、同第26輯 東萊福泉洞鶴巢臺古墳
- 忠南大學校百濟研究所
百濟研究 第35輯
- 宮城県多賀城跡調査研究所
年報2001、多賀城跡関連遺跡発掘調査報告書第27冊 桃生城跡X
- (有)朋文出版
日本史学文献目録1999(平成11)年版
- (株)学生社
飛鳥と亀形石
- NHK事業局
利家とまつ 加賀百万石物語展
- 葛飾区遺跡調査会
平成12年度 葛飾区埋蔵文化財調査年報、葛飾区遺跡調査会調査報告第49集 上千葉遺跡Ⅱ、同第50集 古録天東遺跡Ⅵ
- 三井建設(株)東京土木支店遺跡調査部
市谷田町二丁目遺跡
- (財)韓国文化研究振興財団
青丘学術論集 第20集
- 宮内庁書陵部
書陵部紀要 第53号
- (財)山梨文化財研究所
石原田北遺跡Jマート地点発掘調査報告書
- 全国天領ゼミナール事務局
第16回全国天領ゼミナール記録集
- (財)古代学協會
古代文化 第54巻第1～3号
- 姫路市立城郭研究室
城郭研究室年報 Vol.11
- 独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所
平城宮跡発掘調査出土木棺概報(36)、飛鳥・藤原宮発掘調査出土木棺概報(15)、官営工房研究会会報7、奈良文化財研究所史料第55冊 法隆寺古絵図集、奈良文化財研究所紀要2001
- (財)元興寺文化財研究所
近畿ブロック埋文情報第25号(CD-ROM)
- 奈良県立橿原考古学研究所
奈良県遺跡調査概報1997年度(第3分冊)、同1998年度(第1分冊)、同1998年度(第2分冊) 同1998年度(第3分冊)、橿原考古学研究所年報

26、同27、奈良県文化財調査報告書第58集 榛原町栗谷遺跡群、同第71集 東大寺三社池、同第83集 西坊城遺跡、同第84集 長谷寺、同第86集 下永東方遺跡、奈良県立橿原考古学研究所調査報告第75冊 坪井・大福遺跡、同第78冊 菅田遺跡、橿原考古学研究所研究成果第4冊 大和前方後円墳集成、ホケノ山古墳調査概報、古代大和の石造物

宮内庁正倉院事務所

正倉院紀要 第24号

朝鮮学会

朝鮮学報 第182輯

(財)由良大和古代文化研究協会

研究紀要 第7集

島根県古代文化センター

古代文化叢書6、同7

岡山県古代古備文化財センター

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告162 服部遺跡・北溝手遺跡・窪木遺跡・高松田中遺跡、同163 水口遺跡、同164 百間川米田遺跡4、同165 立石遺跡・大開遺跡・六番丁場遺跡・九番丁場遺跡、同166 下湯原遺跡・藪登山城跡、同167 山崎古窯跡、同168 福見口遺跡・殿釜遺跡・大高下遺跡・大柄畑遺跡、同169 神之脇遺跡ほか

博物館等建設推進九州会議・編集委員会

Museum Kyushu 季刊第19巻・第1号

国立文化財研究所

文化財 第34号

(財)濟州文化藝術財團文化財研究所

(財)濟州文化藝術財團文化財研究所學術調査報告書第1輯 外間洞遺蹟試掘調査報告書

(財)長岡京市埋蔵文化財センター

長岡京市埋蔵文化財調査報告書第22集 長岡京跡右京第696次発掘調査報告、同第23集 長岡京跡右京第716次発掘調査報告、同第24集 長岡京跡右京第721次・開田遺跡発掘調査報告、年報 平成12年度

京都市文化市民局

京都市の文化財(第19集)

弥栄町教育委員会

京都府弥栄町文化財調査報告第20集 太田古墳群発掘調査報告書

舞鶴市教育委員会

舞鶴市文化財調査報告第37集 女布遺跡第3次発掘調査概要報告書

城陽市教育委員会

わたしたちの城陽市

八幡市教育委員会

八幡市埋蔵文化財発掘調査概報 第17集

京都市考古資料館

年報 平成9・10年度、同平成11・12年度

園部文化博物館

園部の大地、初代藩主小出吉親、園部文化博物館報 第2号

日吉町郷土資料館

お人形

向日市文化資料館

研究紀要 創刊号1986

大山崎町歴史資料館

館報 第8号

宇治市歴史資料館

宇治市埋蔵文化財発掘調査概報第49集 一番割遺跡発掘調査概報、同第50集 白川金色院跡発掘調査概報、同第51集 寺界道遺跡・旦棕遺跡発掘調査概報、宇治市文化財調査報告第5冊 菟道門ノ前古墳・菟道遺跡発掘調査報告書

城陽市歴史民俗資料館

城陽市史 第一巻、自然を織る染める纏う

京都外国語大学国際文化資料室

平安京諸陵寮推定地/京都外国語大学6号館、チャルチュアパ

京都橘女子大学

研究紀要 第28号

佛教大学

文学部論集 第86集

佛教大学総合研究所

紀要 第9号

丹波史談会

丹波 第3号

京都府立亀岡高等学校

久遠の知・第5集

八幡市郷土史会

やわたの道しるべ

今田秀樹

五馬大坪遺跡

大西康允

ふるさと椿井の歴史

辰巳和弘

古墳の思想

樋口隆康

実事求是この道、ホケノ山古墳調査概報

森島康雄

陶説4月号、織豊城郭 第7号

編集後記

今年、春の訪れが早く季節の花々も例年になく早い開花となりました。

さて、4月に人事異動があり、本号から小生が編集を担当することになりました。はじめてのお使いならぬ、はじめての編集でしたが、前任者の手取り足取りの特訓のおかげで、ようやく完成することができました。

本誌は、本年度も合計4号の刊行を予定しておりますので、よろしくをお願いします。

(編集担当=辻本和美)

京都府埋蔵文化財情報 第84号

平成14年6月26日

発行 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40番の3
Tel (075)933-3877(代) Fax (075)922-1189

印刷 三星商事印刷株式会社

〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル
Tel (075)256-0961 (代)



KYOTO
ARCHAEOLOGY CENTER